



彼氏  
と  
彼女

彼女  
と  
彼氏

予備役製作所

# 登場人物



**宝田 輝一**

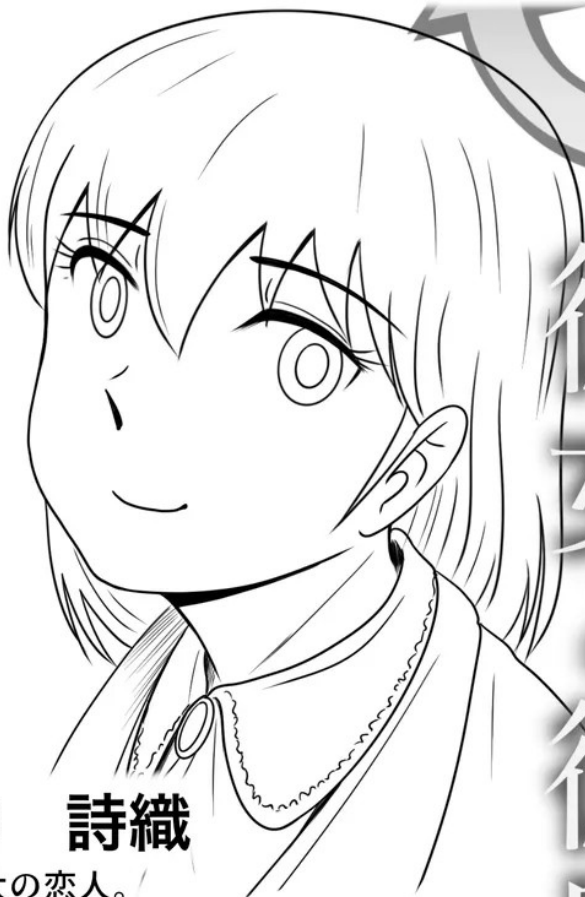
雫の恋人。  
詩織、亮太とは大学時代同じサークルだった。

彼氏と彼女



**泉 雫**

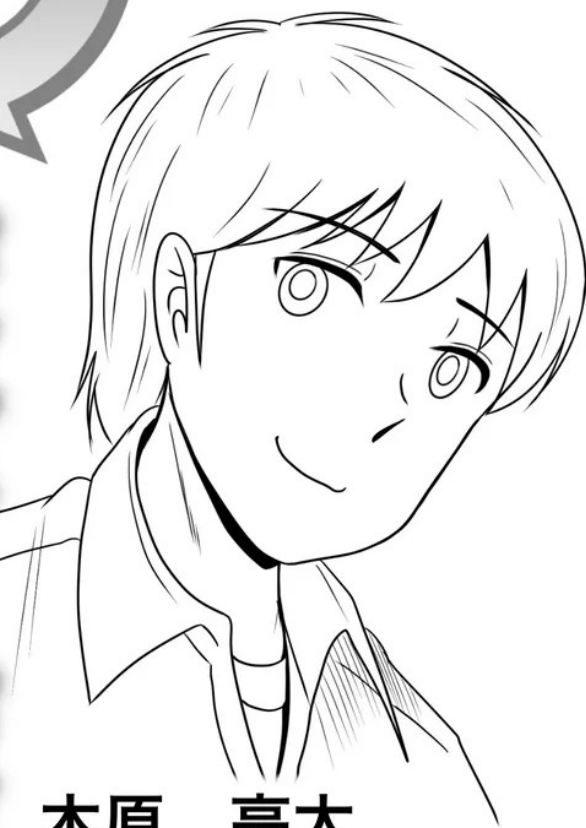
輝一の恋人。  
詩織や亮太の大学時代の後輩。  
巨乳でエッチな事が大好き。



**神 詩織**

亮太の恋人。  
最近亮太との省略気味のセックスに  
不満を持っている。  
真面目を装っているが  
エロい事には大変興味がある。

彼女と彼氏



**木原 亮太**

詩織の恋人。  
詩織とのセックスには若干飽き気味。  
巨乳ずき。



ちよっと、雫ちゃん  
意味わかって  
言ってるの？



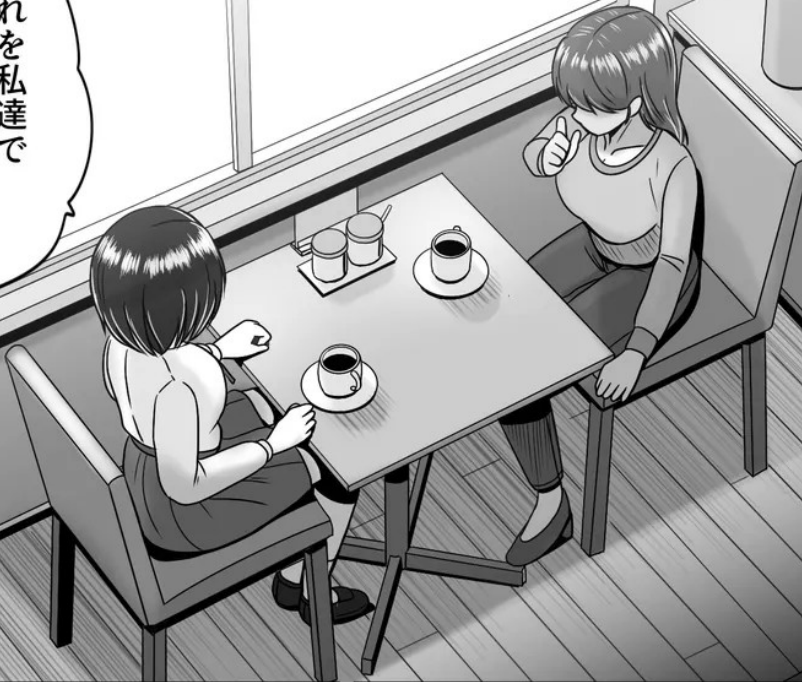
もちろん  
です！

二組の  
カップルが



互いのパートナーを  
入れ替えて  
エッチすることです！

それを私達で  
やろうって訳です！



私とキーちゃん

それと  
詩織先輩と亮太先輩  
の四人です。

きっと  
楽しいですよ。



私は、榊詩織。二十四歳のOLです。  
私には大学時代から付き合っている彼氏がいます。

彼は木原亮太。  
同じ年で大学では同じサークルに属していました。

とんでもない提案をしてきた彼女は  
泉雫。  
同じサークルの一つ下の後輩です。

彼氏はやはり同じサークル出身の  
キーちゃんこと宝田輝一君。  
彼は私達と同期です。



私達四人は  
大学を卒業した後も何かにつけて  
集まって飲み会したり、  
遊びに行ったりしています。

結構仲良しのグループなのですが

だからと言って

スワッピングだなんて…



実は私  
キーちゃんが初めての  
男の人なんです。

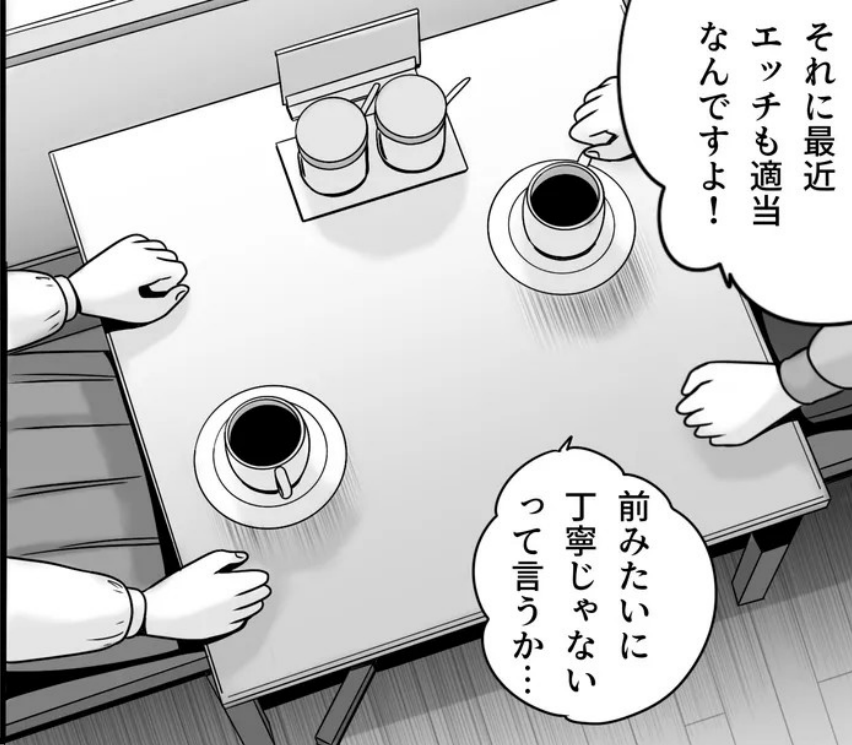
だから、  
キーちゃん以外の  
男の人を知らなくて、

詩織先輩は  
興味ありませんか？

他の男の人の  
おちんちん。

そう言えば  
私も  
亮太しか知らない

他の人の  
おちんちん！  
どんなかしら！



えっ？  
もう？

なんか  
早くない？

大丈夫だよ、  
もう十分濡れてるし、

じゃあ  
いくね！

んんん

ズズズズ

別に不満ってわけじゃ  
ないんだけど、

なんだか  
省略形だわね…

詩織先輩!

知

私  
不安なんです!

知

将来結婚しても  
キーちゃんが  
知らない女の人と  
不倫しちゃうかも。

そんなの  
嫌なんです!

まあまあ...

そんな先の事  
心配しても...

私、愛情の  
確信が欲しいんです。  
キーちゃんが詩織先輩と  
エッチしても

ちゃんと  
私のところに  
戻って来るって。

だから  
スワッピング  
なんです!

栗ちゃんの  
言う事も  
分かるけど、

私、  
詩織先輩なら  
それでスワッピングだなんて  
いくらなんでも短絡的過ぎない？

キーちゃんとエッチしても  
本気じゃなきゃ  
平気なんですけど…

まあ、  
スワッピングは  
一旦置いて

一度  
四人で会って  
話をしましょう。

時間と場所は  
栗ちゃんが  
決めていいわ。

だからって！

HOTEL  
Cuckoo's Nest



ラブホテルなの!

なんで



ベッドでか!

わあ!

おお、  
広いじゃん



ベッド  
フカフカ!



とりあえず  
座ろうぜ。

せっかく  
来たんだし



あなた  
知ってたでしょ!

ちょっと  
亮太!

結構  
いい部屋だな





それに  
俺は卑を  
信じているし

たかが今日  
セックスしたくらいで  
亮太に負けない  
自信はあるさ。

亮太!  
あなたは  
どうなの?

私が輝一君と  
寝ても  
平気なわけ!

正直  
複雑だけど

愛情の確認には  
なるんじゃないかと。

何かっこ  
つけてんの!

あなた  
乗ちゃんと  
エッチしたいだけでしょ!

決して  
そう言う  
訳では:

ねえ  
詩織先輩...

先輩は  
自信無いんですね。

亮太先輩が  
私に取られるのが  
怖いんですよ？

そんな事  
ないわ！

キーちゃんと一緒に  
私もキーちゃんを  
信じてます。

だから今日の事は  
亮太先輩の言う通り  
愛情の確認なんです。

一体何なの！  
みんな！

そんな事  
無いって！

あげませんよ。

それとも  
先輩がキーちゃんに  
夢中になるとか？



ちよっと！  
輝一君！  
何すんの！



じゃあ  
そういう事で。



ほら、  
見てみな。

始めちゃってる  
から。

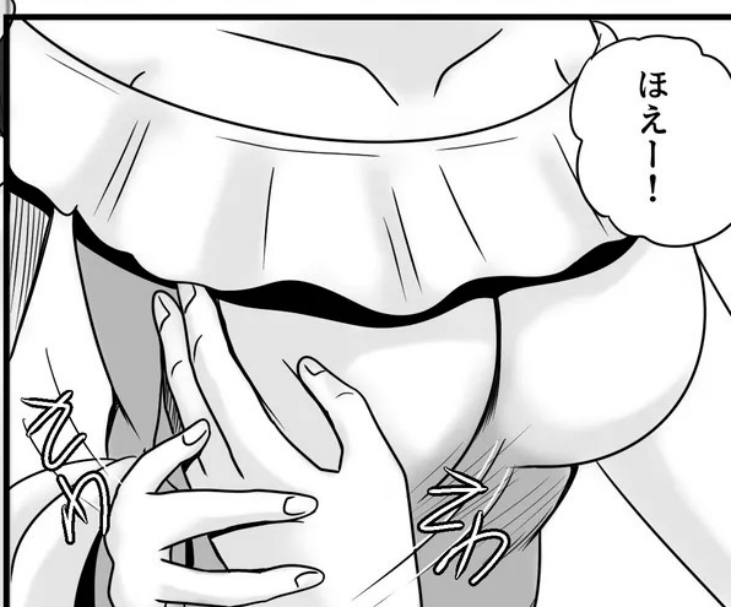


いっぱい  
触ってください。

栗ちゃん  
おっぱい  
柔らかいね〜



！  
！



ほえー！



亮太のヤツ  
早速  
何やってんの



やりましょう  
スワッピング!

あーもう  
わかった  
わかった!



へへ!  
オッケー!



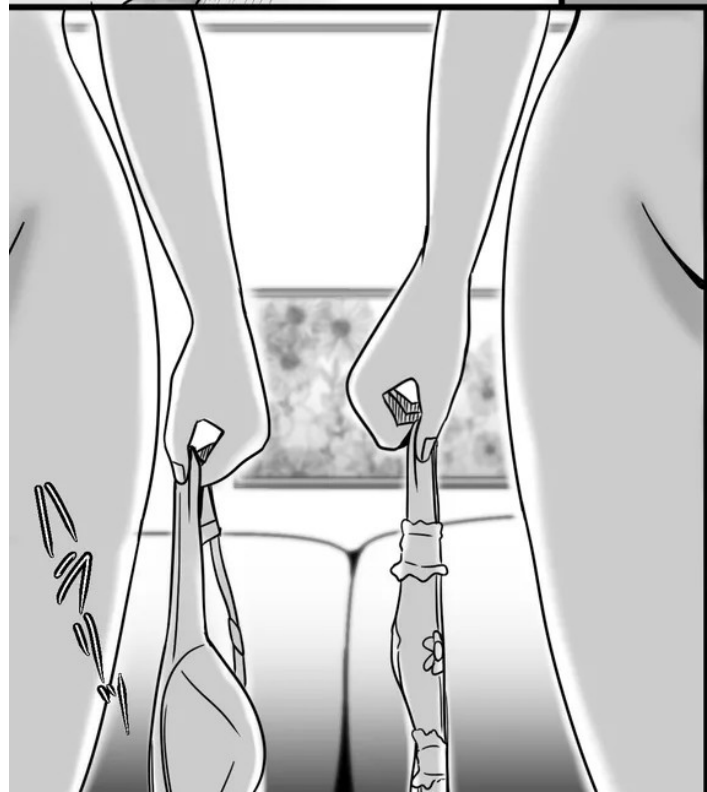
ただし  
避妊はちゃんと  
して!

それと  
服は自分で  
脱ぐから!



光栄だねえ。

しかし  
詩織の裸が  
拝めるとは



言っとくけど  
今日だけ  
だからね！





私は  
綺麗にしていますよ。

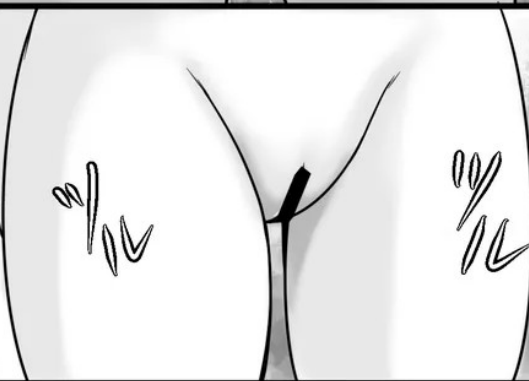
ちゃんと  
サロンで  
脱毛しましたから。

剃ったんじゃ  
無いんだ!?



イケてる女子は  
皆んなそうですよ。

そんなの  
常識です。



う、  
うるさいわね!

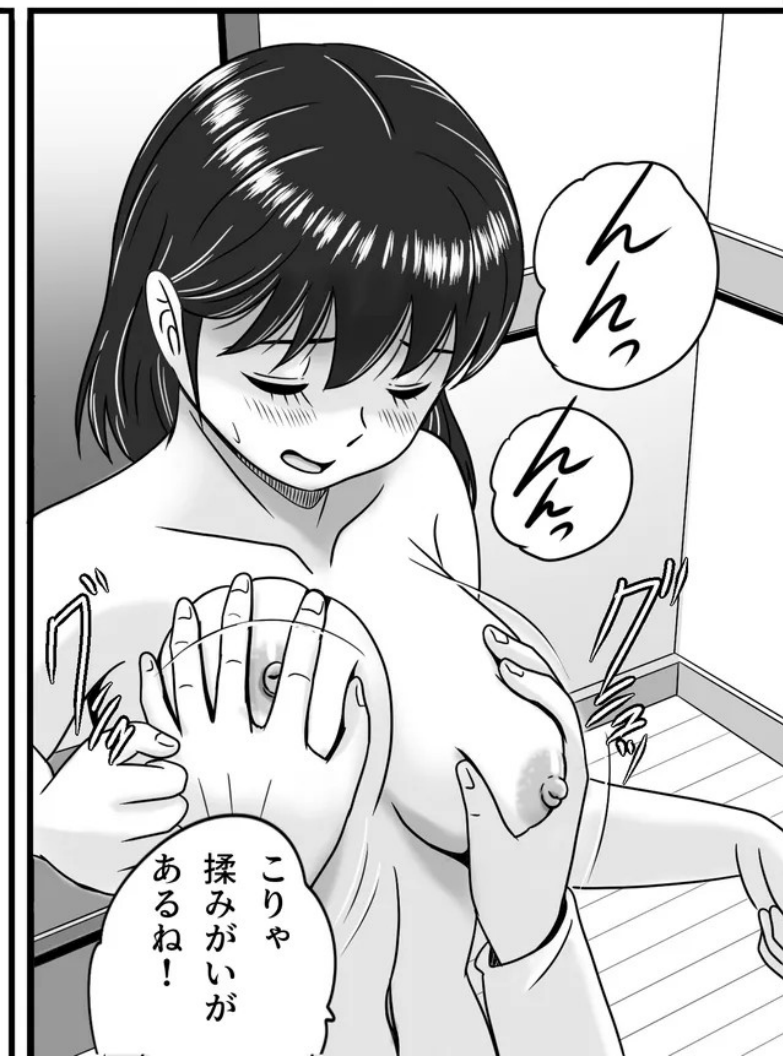
自然が  
良いのよ!

まあ  
詩織らしいかな。

ほれ  
近くで見せてみな。









私のなんか  
こんな控えめで  
色も綺麗でしょ？

もう、  
ピンこ立ちじゃん。  
エロいですよ。



それに  
エロい乳首だ。  
あ

別に  
エロく無いでしょー



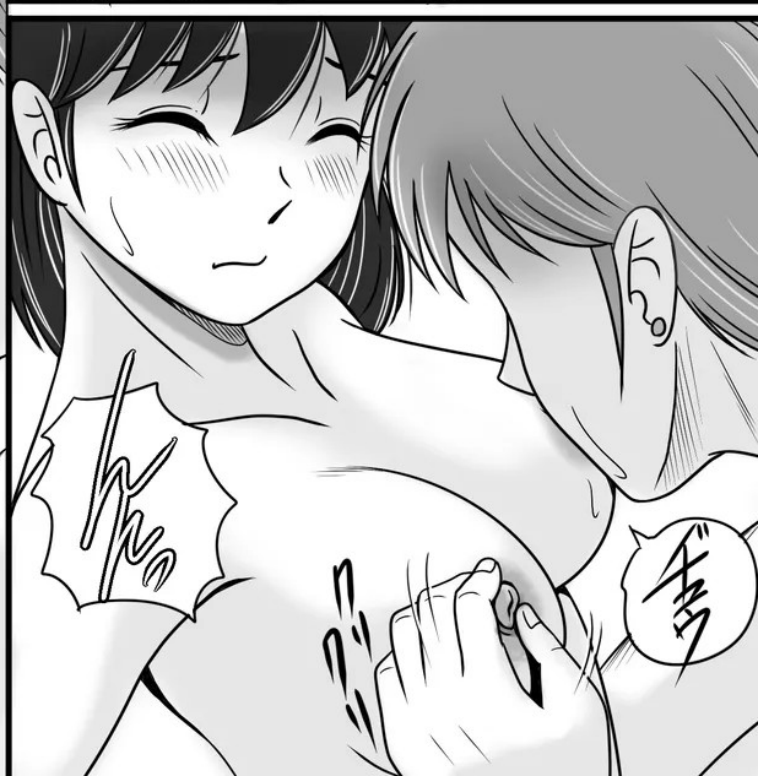
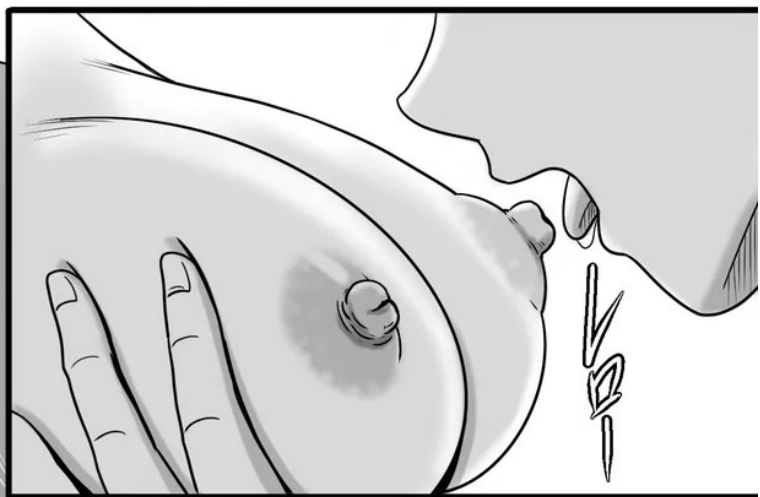
そんなに  
引っ張らないで！

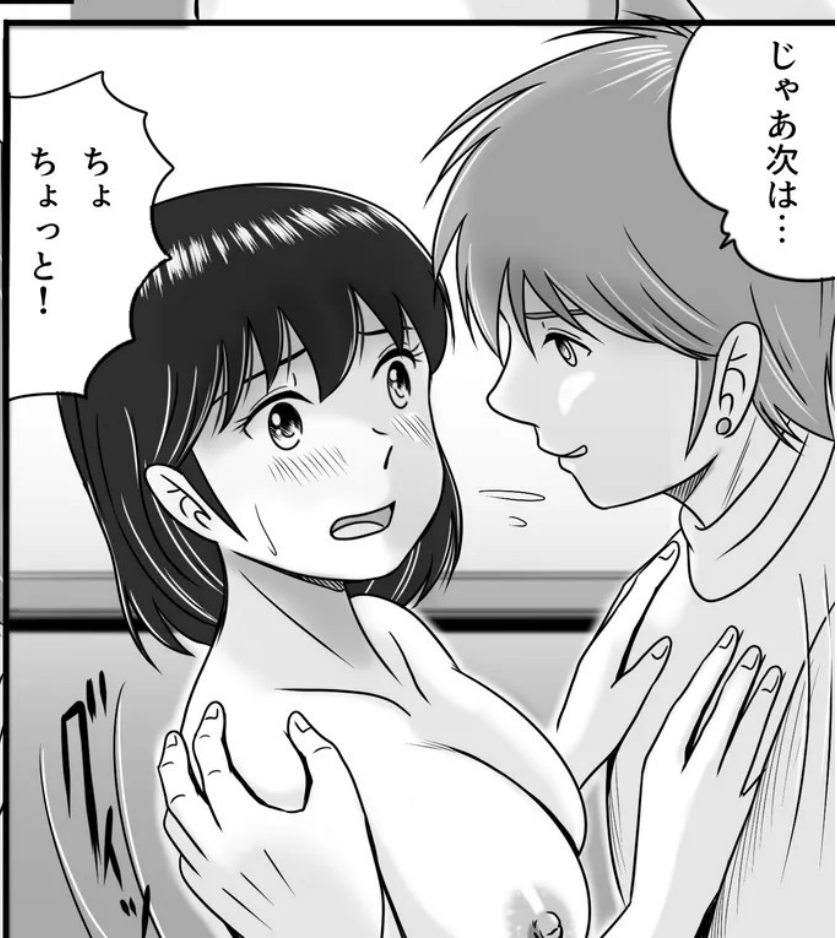
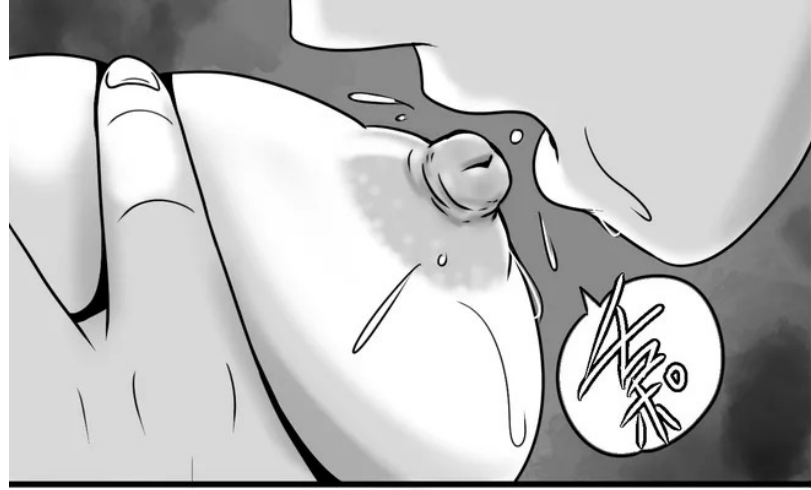
ちょっと！  
さらによく  
伸びる！



感度も  
良さそうじゃん！

それに…





あっちの二人は  
やっちゃってる  
けど良いの？



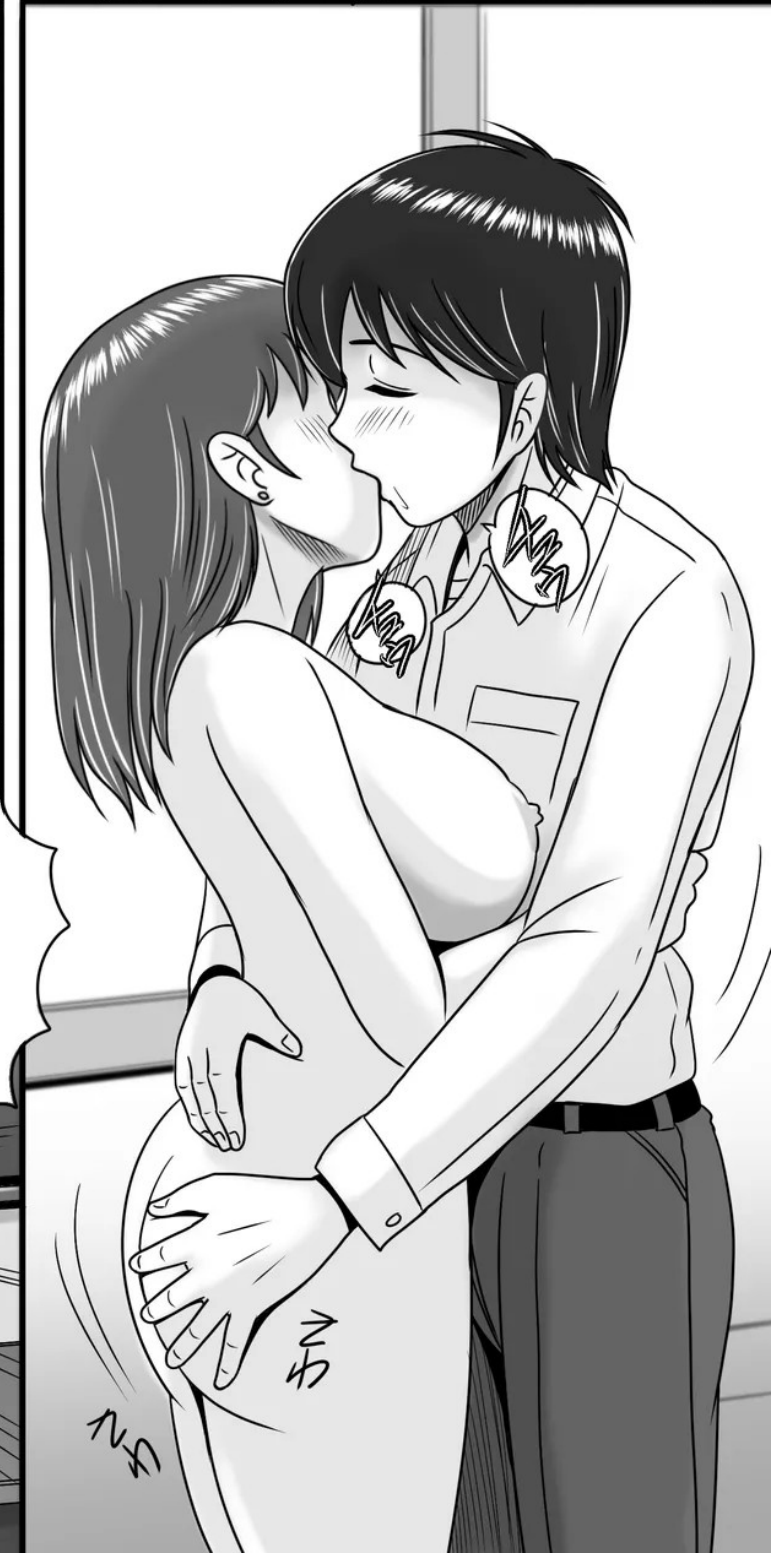
まあ  
プレイの  
一貫だから

気軽に  
いこうぜ！



もう！

好きにして！











自分で  
何とかしなさいよ!

い、  
嫌よ!



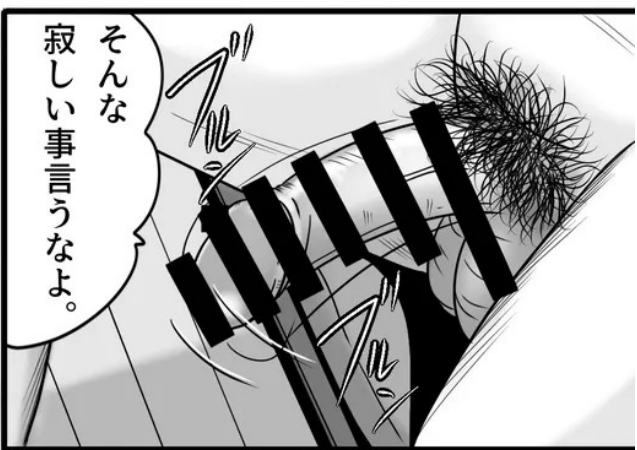
じゃあ  
とりま

デツカク  
してくれよ。



もう  
さっきから  
ビンビンだよ。

先輩  
エッチですね〜



そんな  
寂しい事言うなよ。



痺も  
頑張ってるじゃない。

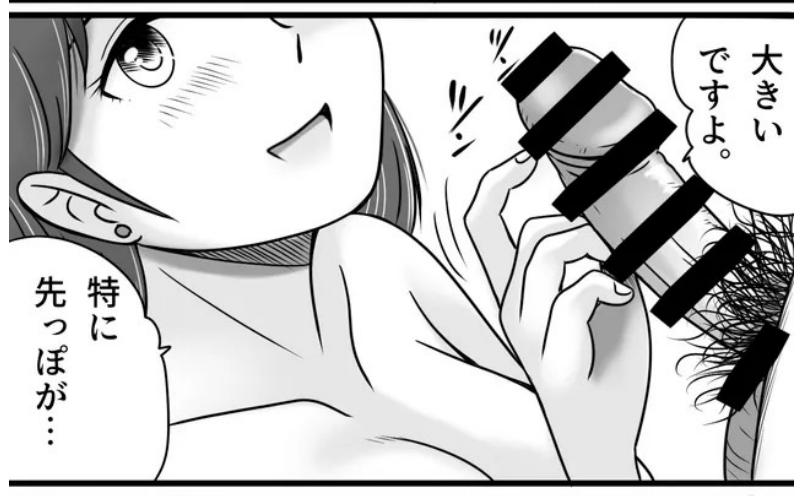


普通だと  
思うんだけど…

そうかなあ？



先輩  
おちんちん  
大きいですね。



大きい  
ですよ。

特に  
先っぽが…



し  
卑ちゃん…





あーもう！  
わかった  
わかった！

してあげる！  
してあげる！  
してあげる！



それは  
詩織次第かな？

まあ、

さっさと  
おつきく  
しなさいよ！



そのかわり



これで  
大きくなったら

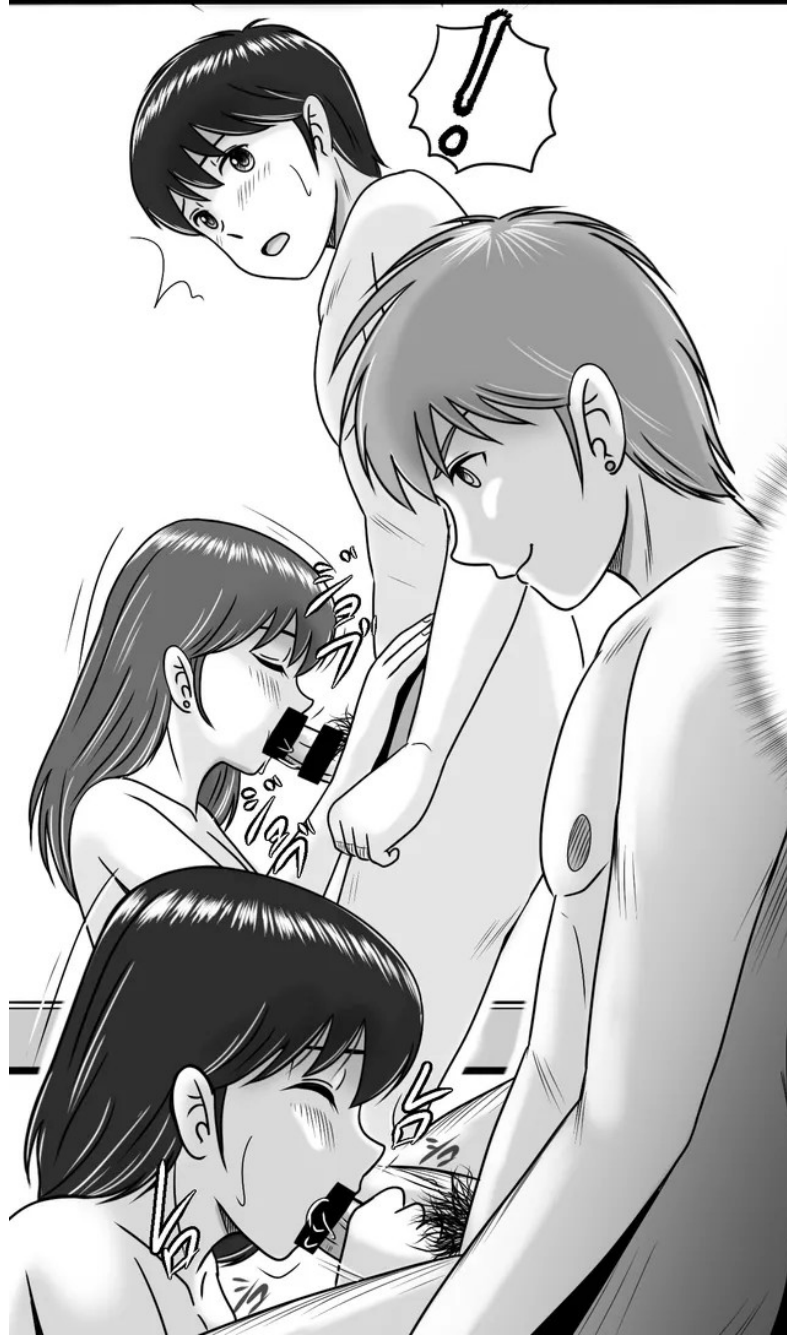
何より  
なんか長い…



それにしても  
輝一君のおちんちん  
亮太と全然違う…

色も形も…





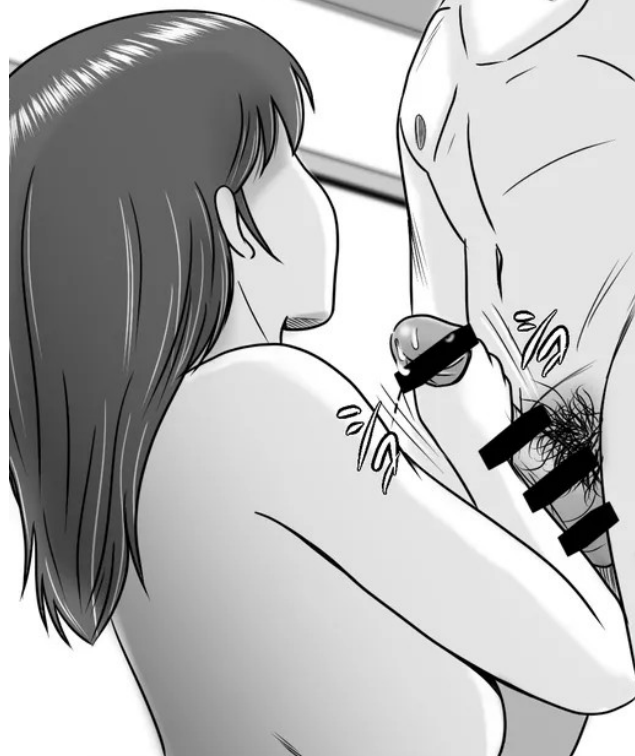
亮太先輩  
よそ見しちゃ  
嫌ですよ。



いやあ



やっぱ  
ちよっと  
気になっちゃって



ほら  
髭がパイズリ  
してあげますから  
ちゃんと見てて下さい。



おっ!

どうですか?  
先輩。

私、  
得意なんですよ。

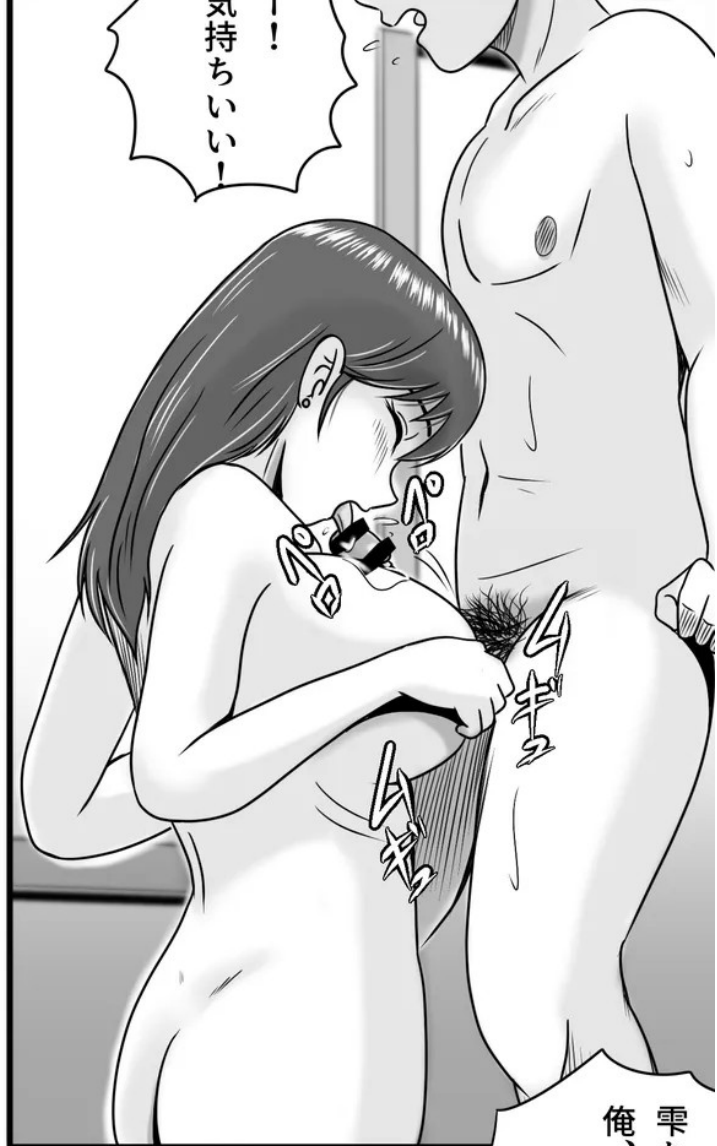




おー！  
超気持ちいい！



栗ちゃん  
これ  
凄いよ！



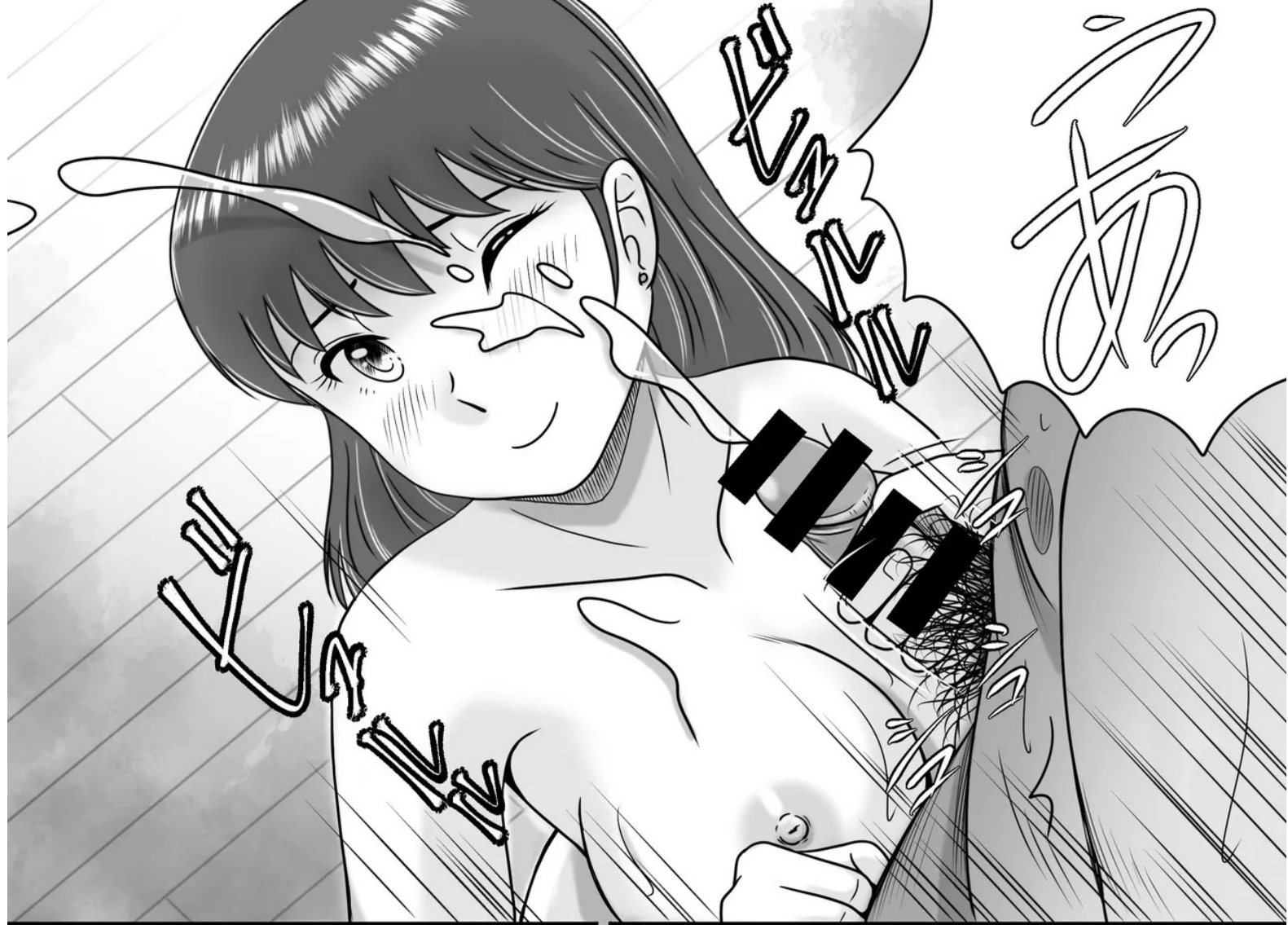
栗ちゃん  
俺、もういきそう！

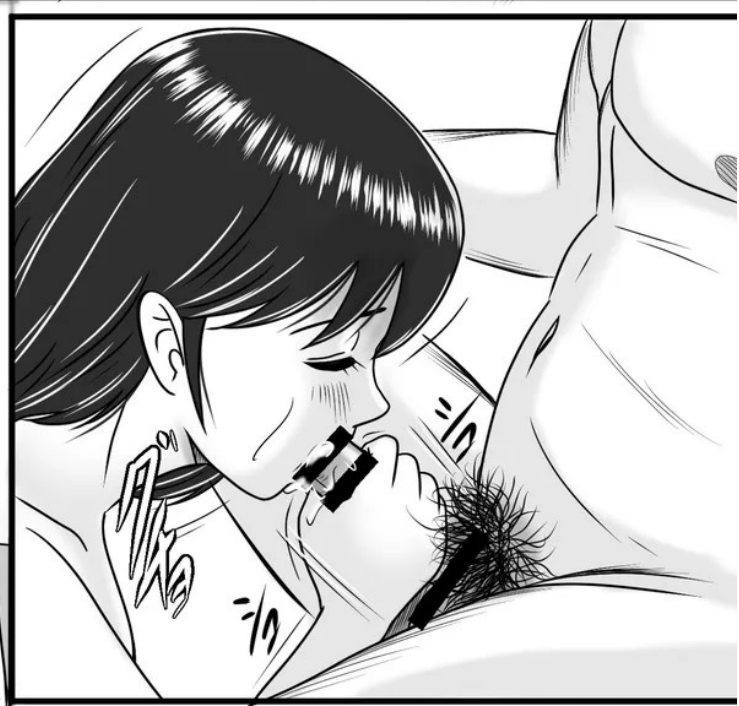


出る！  
出る！



あー  
やばい！





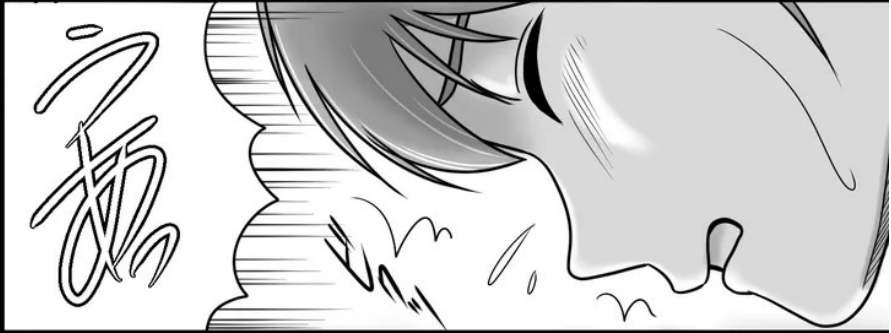


詩織！  
出すぞ！  
いいな！



やばい！  
もう持たねえ！

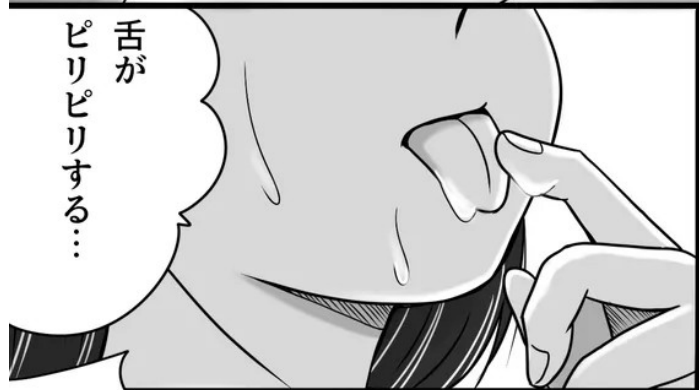
詩織！  
ちよつと  
強烈！



うひゃー  
チヨ  
気持ちいい！



！





亮太は卑ちゃんの  
おっぱいが  
良いんですよ！



まあ  
まあ

なんで  
ごっくんなんだよ  
僕なんて  
口に出した事も  
無いのに



そんな事より



あんた達ばかり  
気持ち良くなって  
ずるいじゃない！

私達も  
気持ち良く  
してよ！



任せろ！

オツケー





亮太先輩、

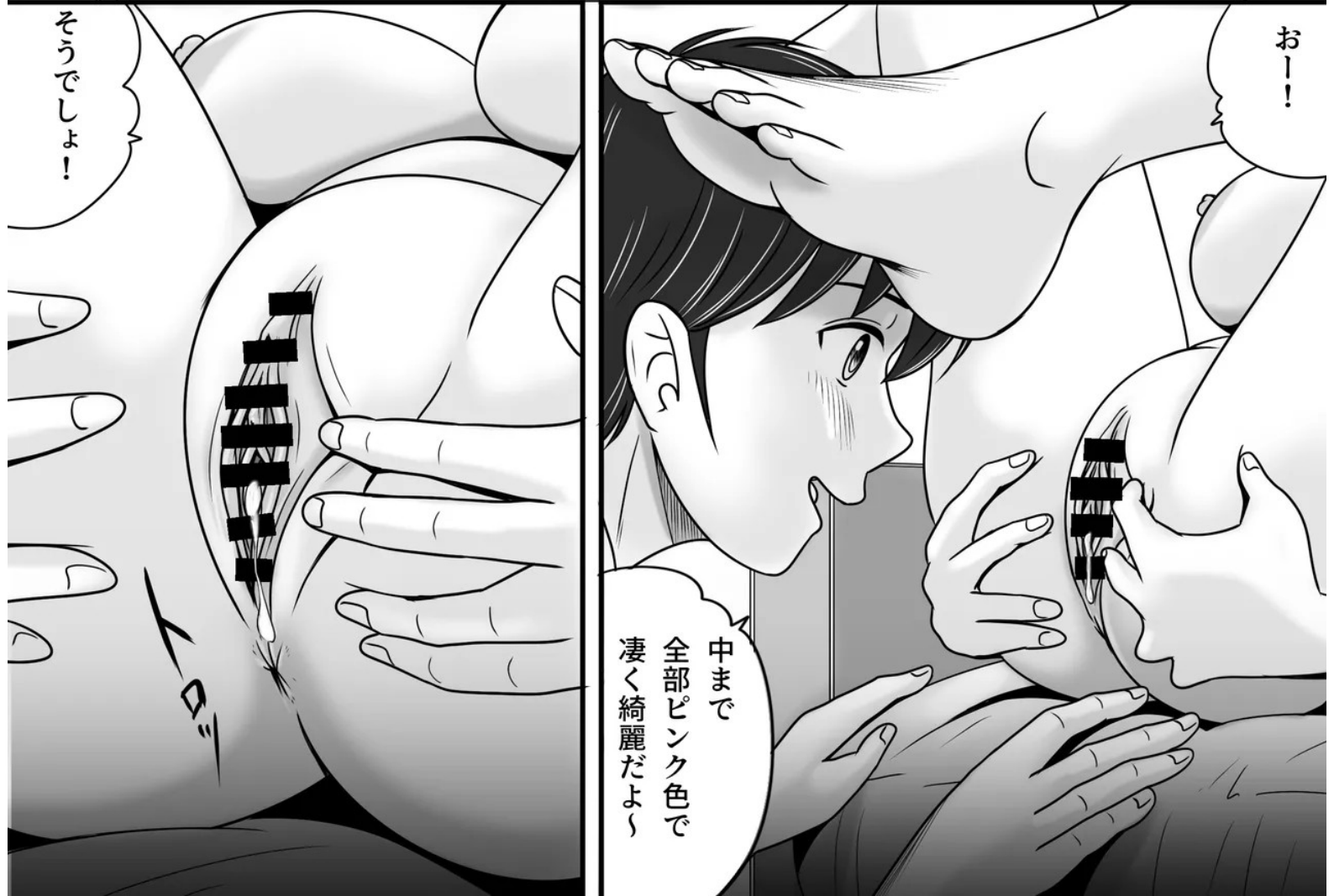
栗のおまんこ  
いっぱい  
見てください。

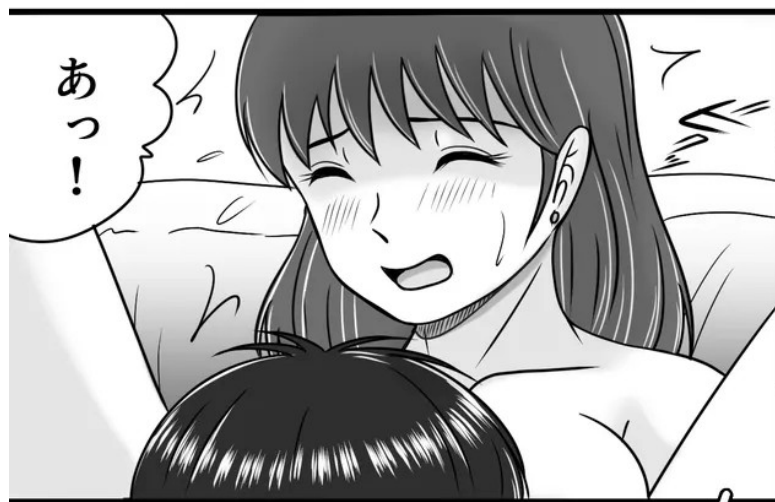


おー！

中まで  
全部ピンク色で  
凄く綺麗だよ

そうでしょ！





思った通り

詩織は  
まんこもエロいな。

な、何よ  
それ！

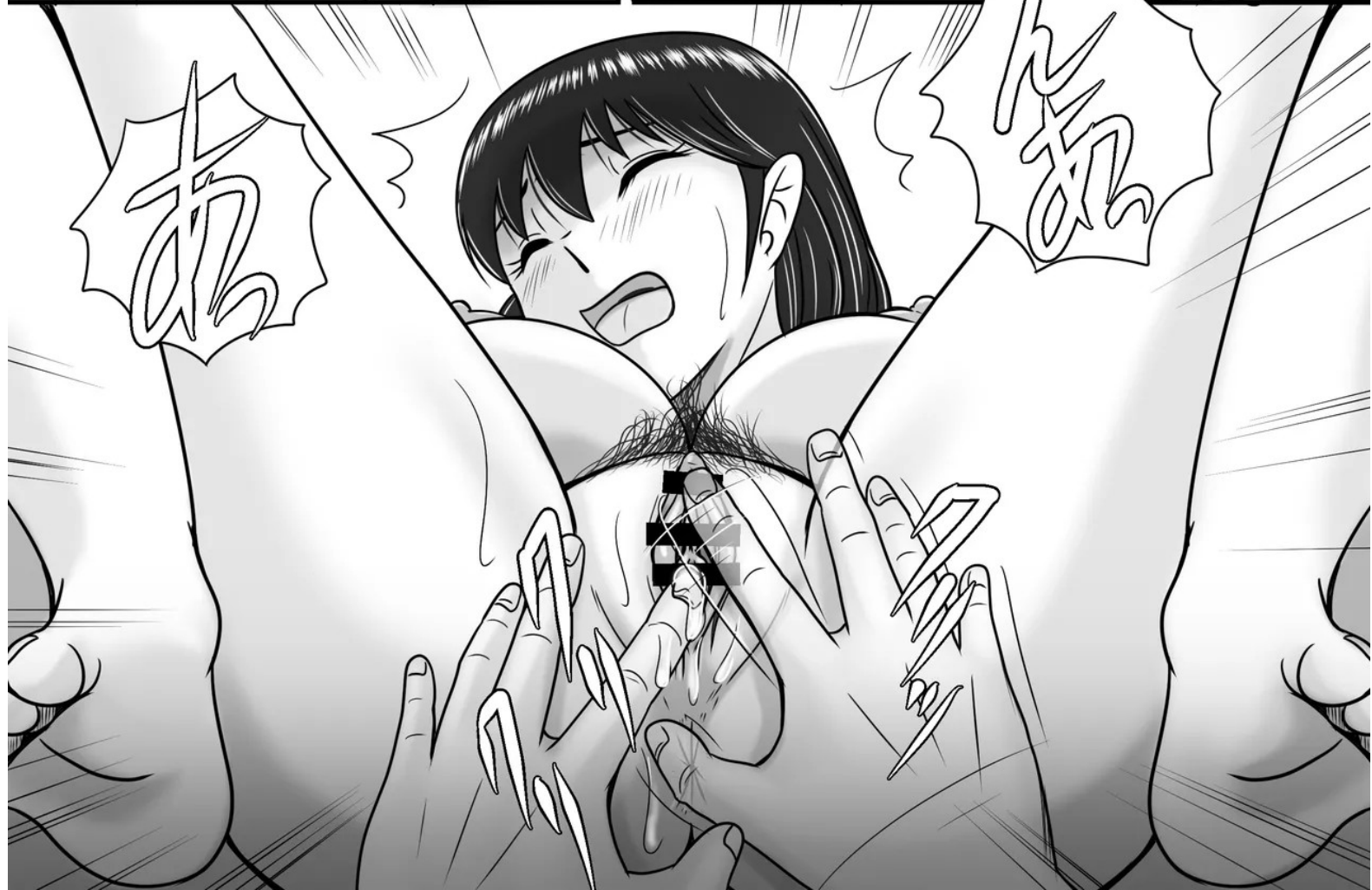
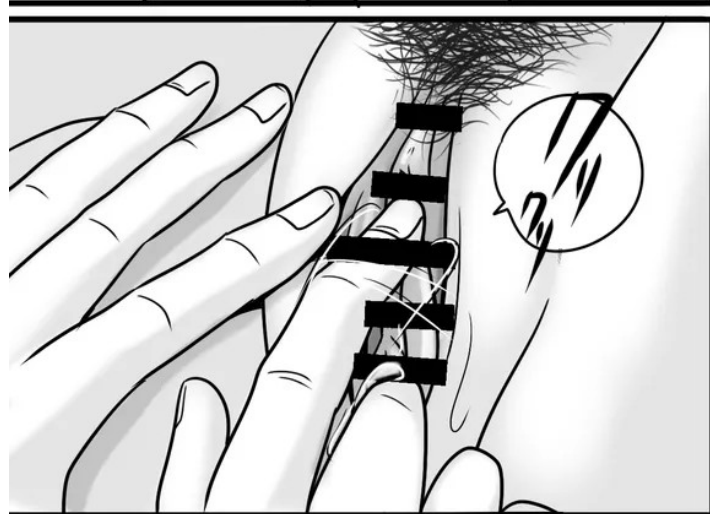
は、  
恥ずかしい…

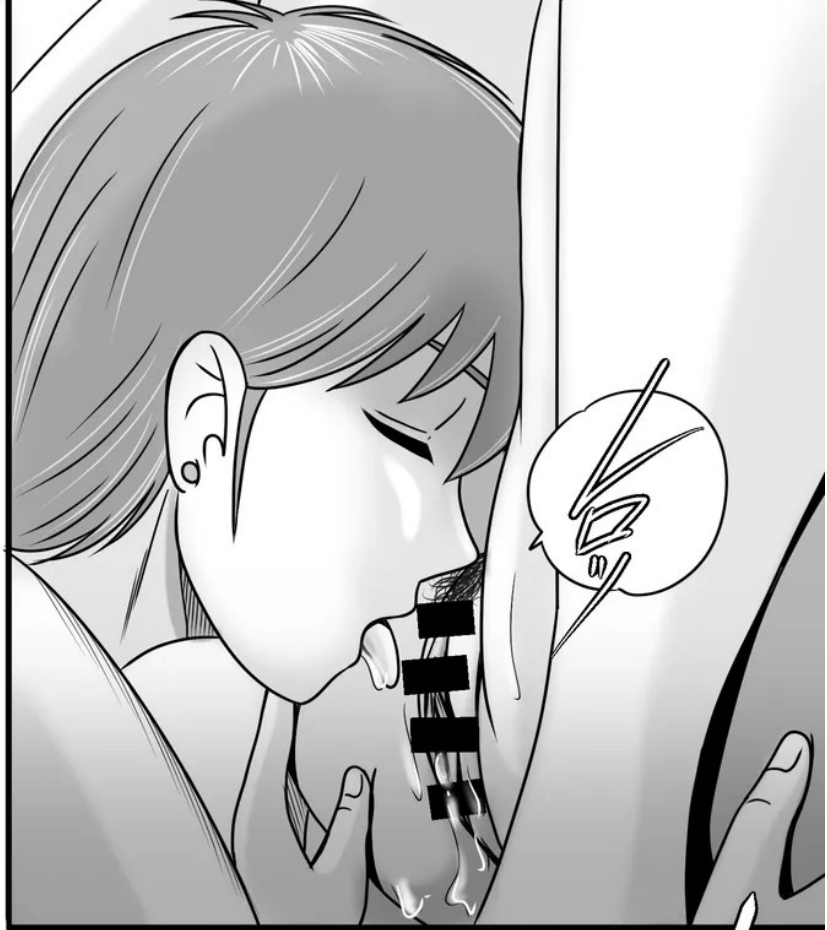
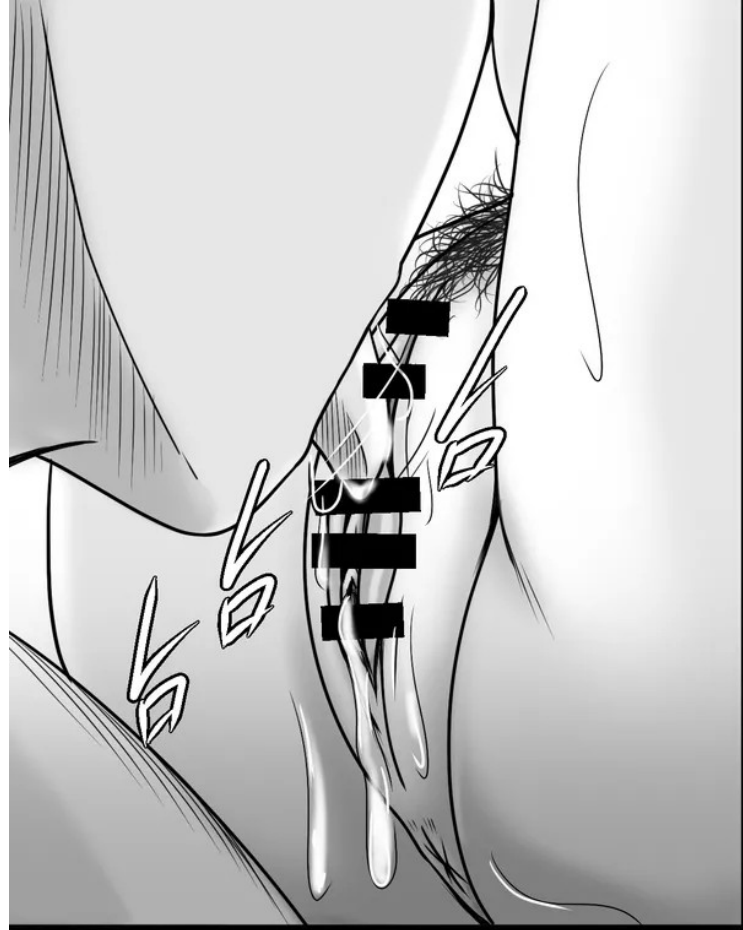
でも  
色はピンクで

はっ  
あ

思ったより  
凄く  
綺麗じゃないか



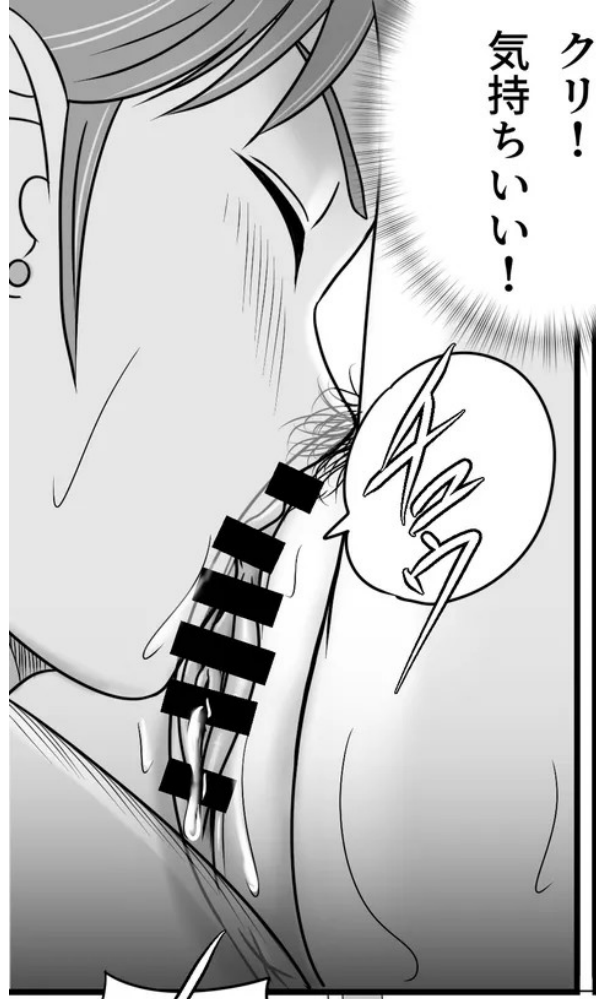




き、気持ちいい！



クリ！  
気持ちいい！



んあゝ

あゝあゝ



んあゝ



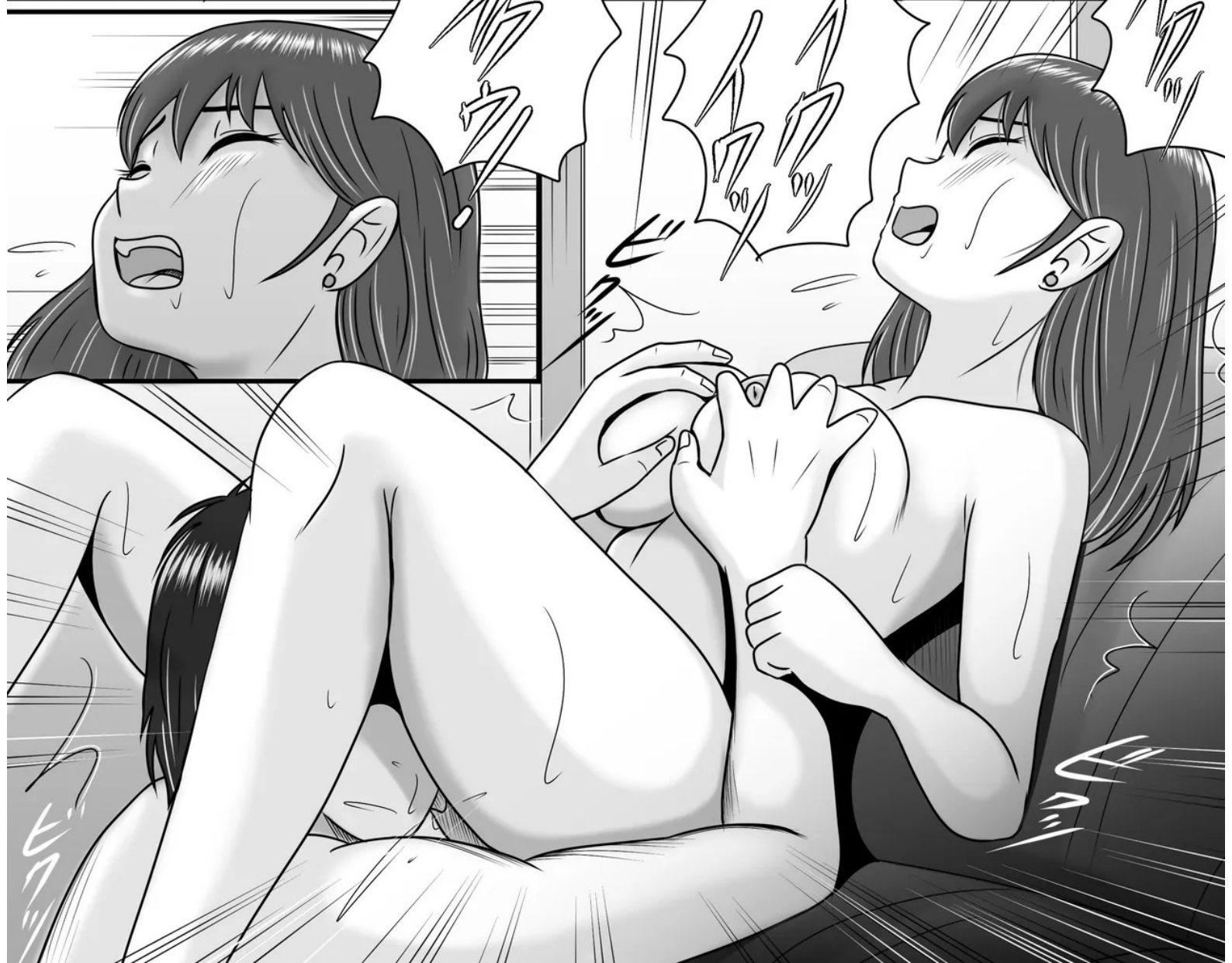


あー!  
イクイク!



もう  
いきそうです!

先輩!





雫ちゃん  
いいな…

あんなに  
気持ちよさそうに

ね、ねえ  
輝一君…

どうした？

俺のクンニも  
なかなかだろう。

あ、あの  
お願いしても良いかしら…

私も…  
そろそろ  
いきたいんだけど。

オッケー

じゃあ…





で、  
はさちやう…

お、お、お

お、お、お

お、お、お

お、お、お

お、お、お

お、お、お



!

わっ  
スゴ!

ああっ

お漏らし  
なんて!

は、恥ずかしい!



ああっ!



凄く  
良かったらう!

どうだ  
俺の手マン

...



み、  
見ないで!

でも凄く  
気持ち良かった!

ね、ねえ  
輝一君…

でも、もっと  
気持ち良く  
なりたい！

ベッド行って  
続きしよ…

私達も  
行きますよ。

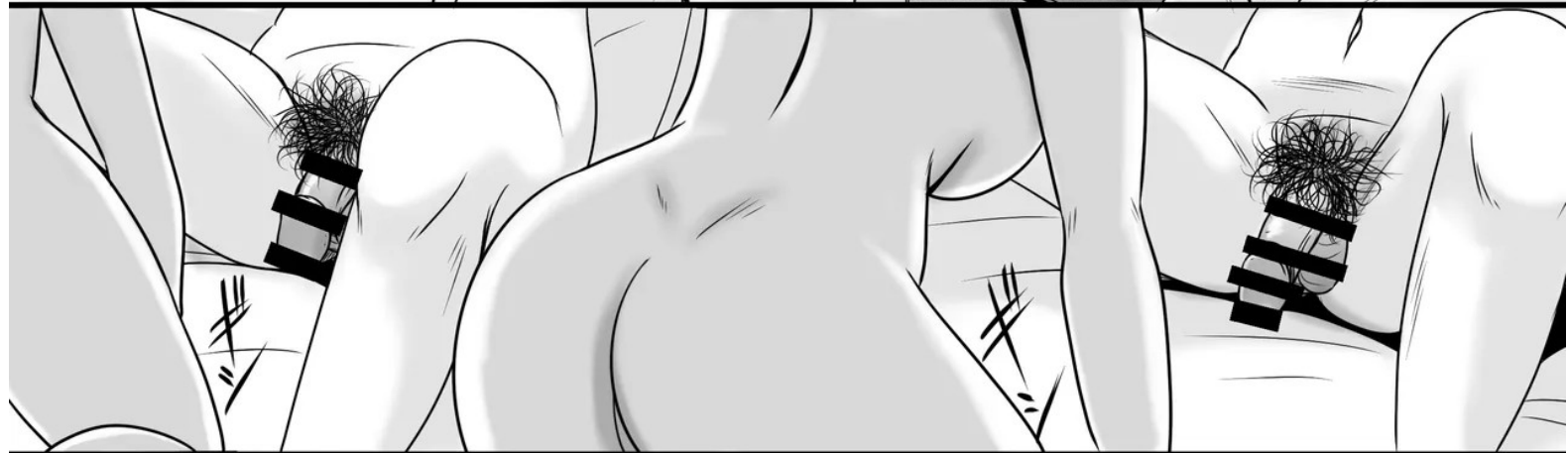
ほら  
亮太先輩。

詩織！  
完全に  
スイッチ入ったな！

ああ…

いっばい  
いかせてやるよ。

しおり〜！



さつきは  
余裕が無かった  
けど…

改めて  
見ると  
本当に大きい…

詩織の  
好きに  
していいよ。



凄い…

もうこんなに  
硬い…





やっぱ  
詩織上手いな。

なかなか  
いいぞ。



その調子で  
タマの方も  
頼む。



こっちも  
大きい！

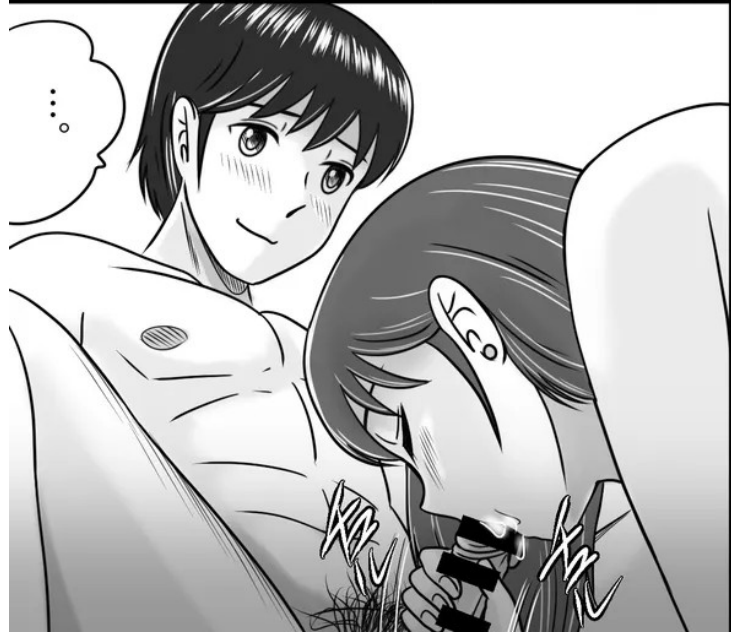
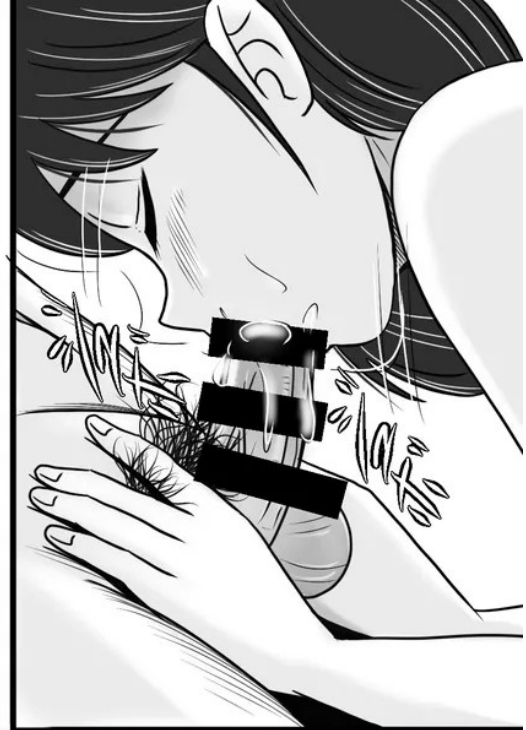


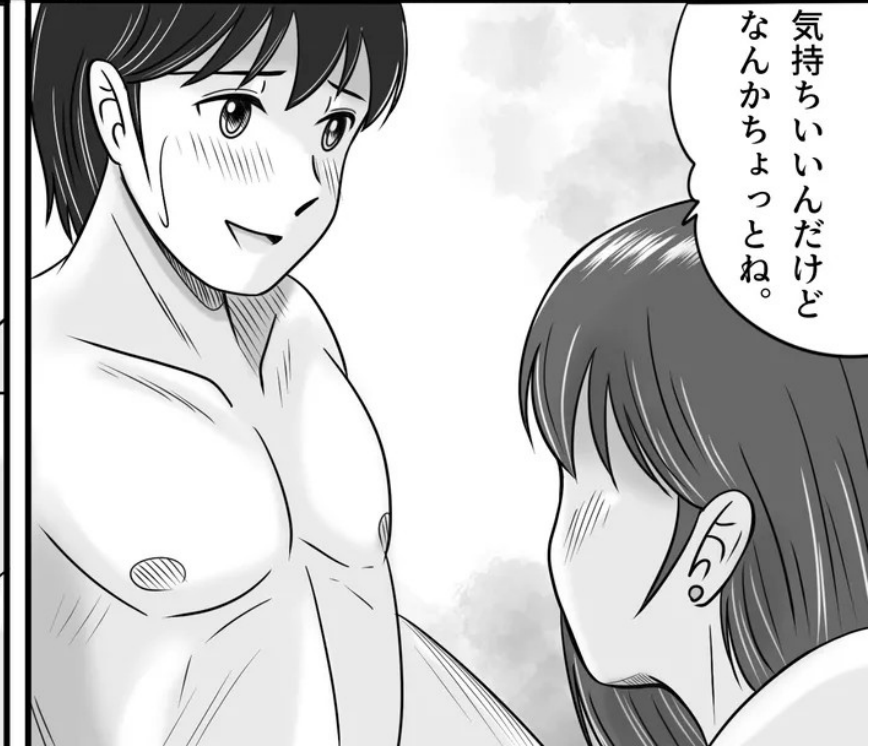
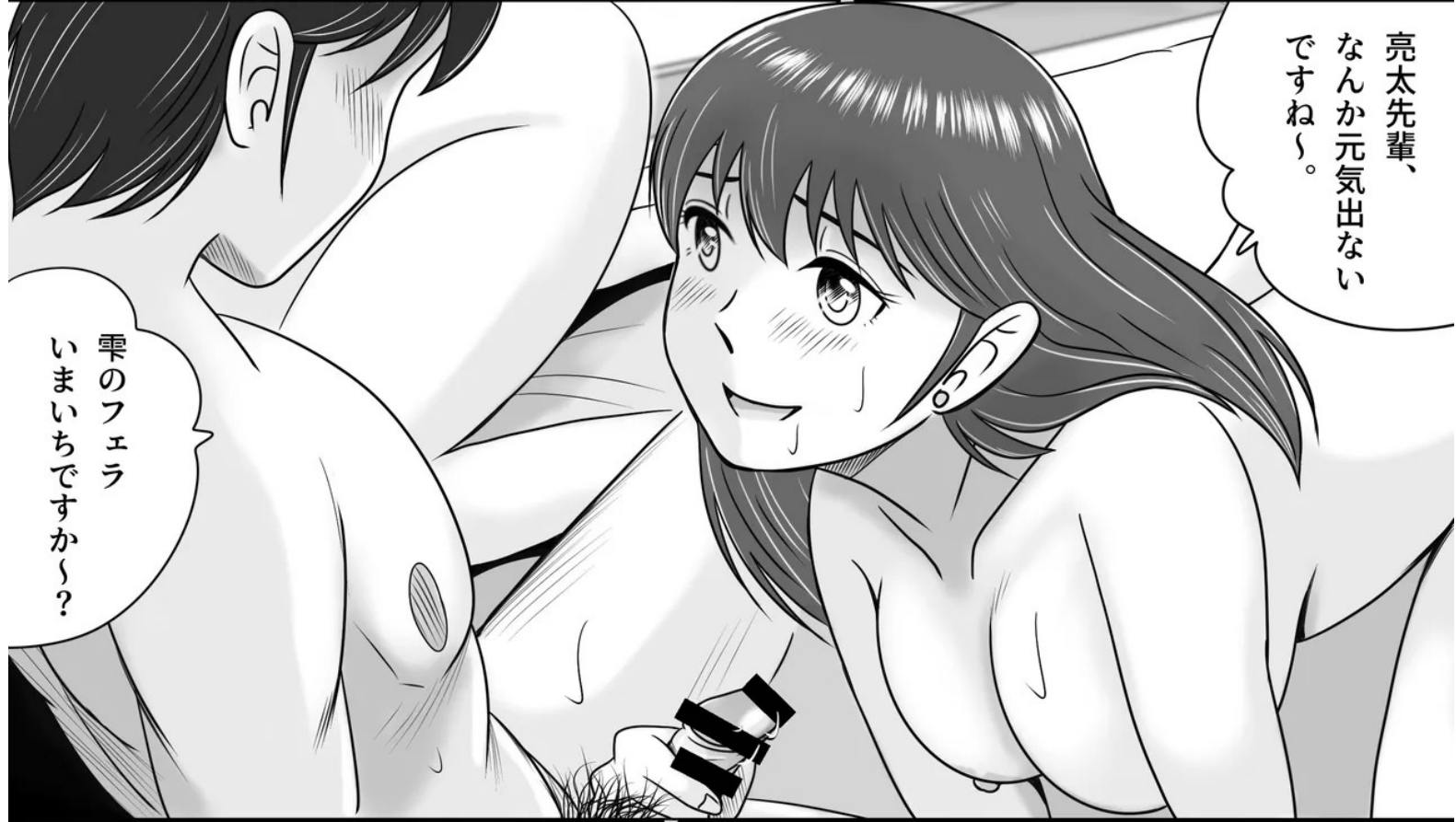
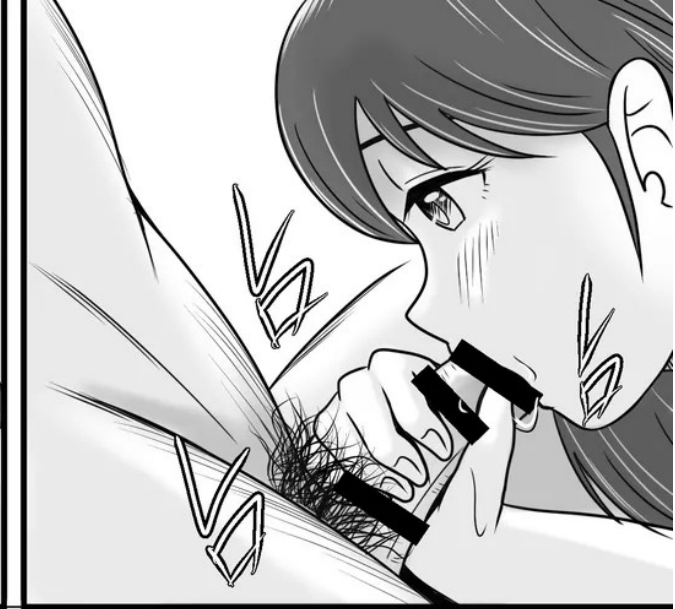
輝一君  
気持ちいいんだ…



お汁がたっくさん…









先輩の  
大好きな  
パイズリですよー。

コレなら  
元気になるでしょ！



し、栗ちゃん

気持ちいい！

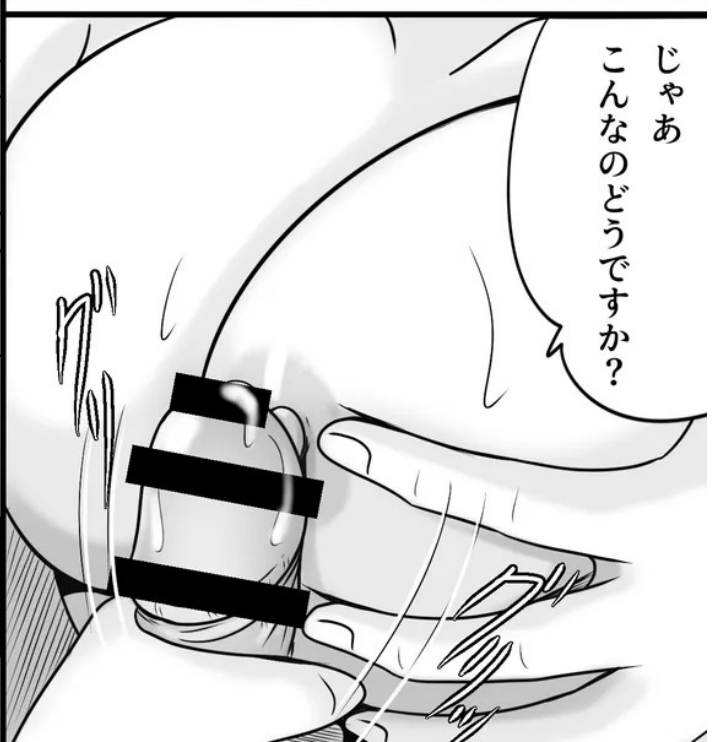


ほら！  
もう硬くなった。

あ



亀頭の  
乳首責めですよー。



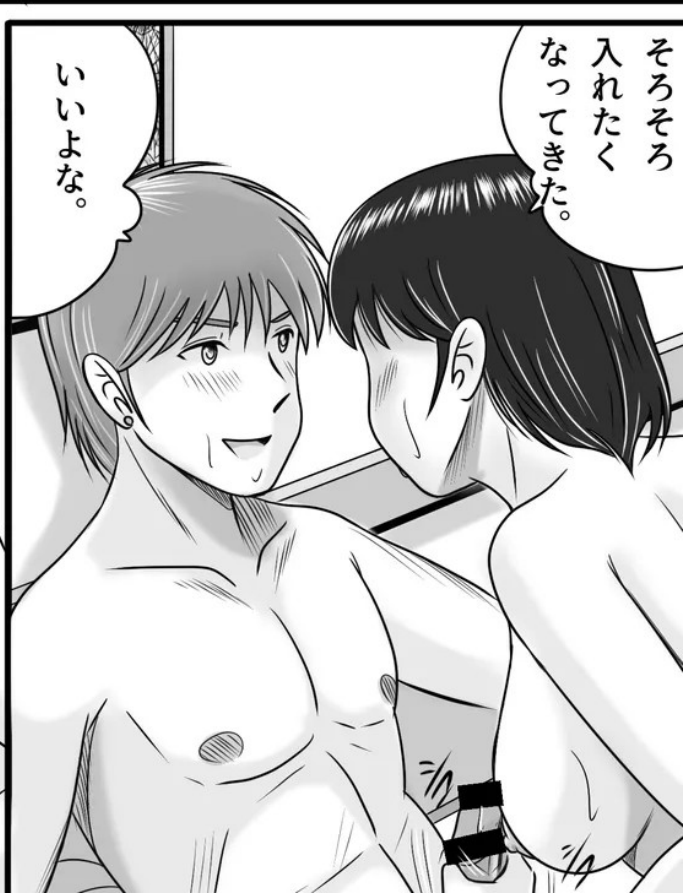
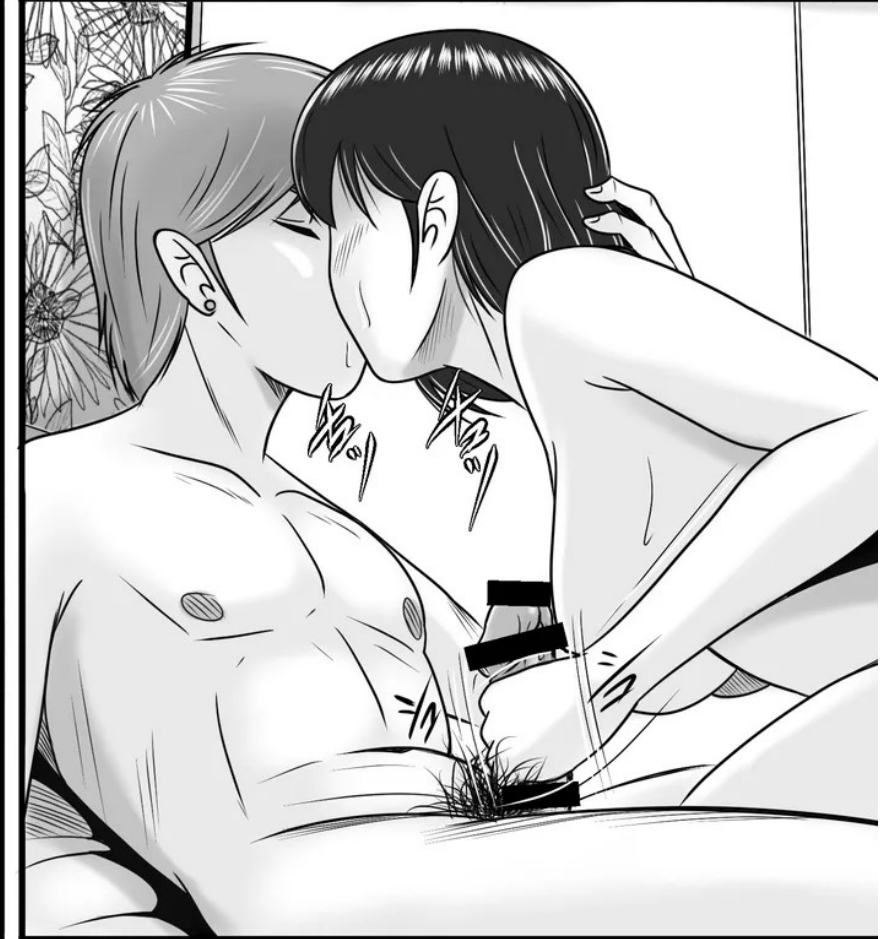
じゃあ  
こんなのどうですか？



なあ  
詩織。

キス  
してくれよ。







あんな  
大きいの  
入れられちゃうんだ

詩織、  
入れるぞ！  
いいよな！



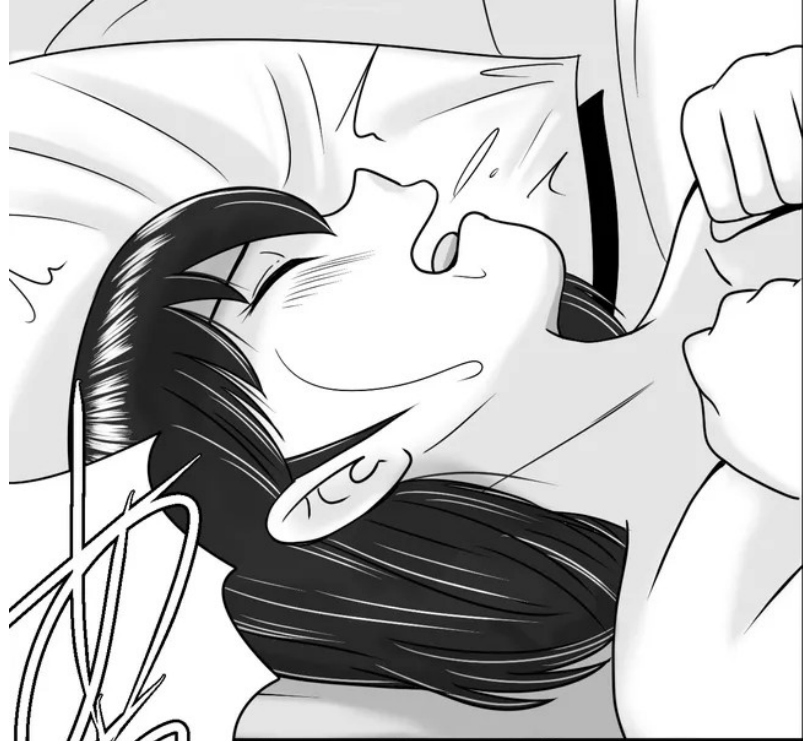
今日は  
そういうプレイだし。

あ、ああ…



亮太  
いいのね？





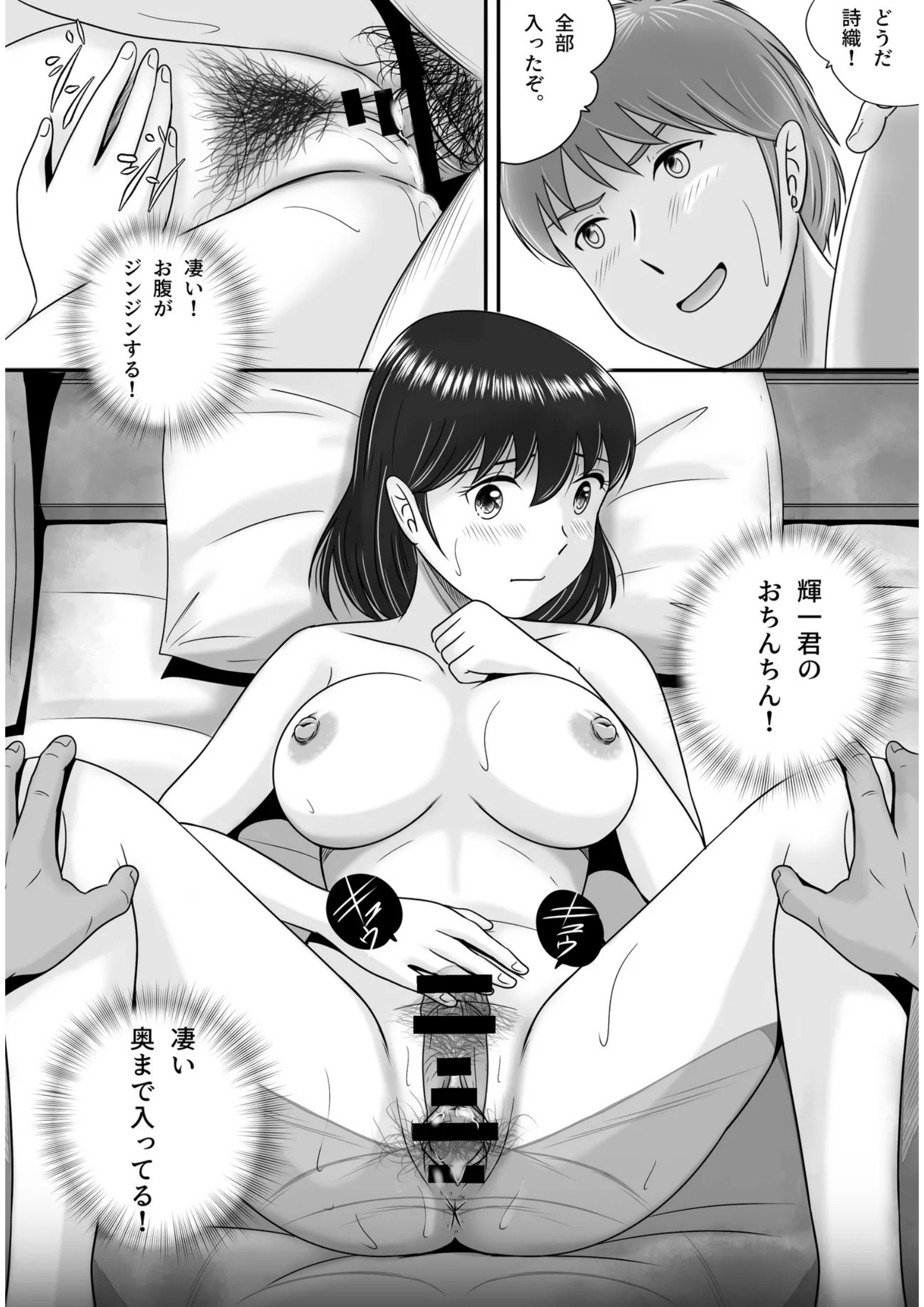
どうだ  
詩織!

全部  
入ったぞ。

凄い!  
お腹が  
ジンジンする!

輝一君の  
おちんちん!

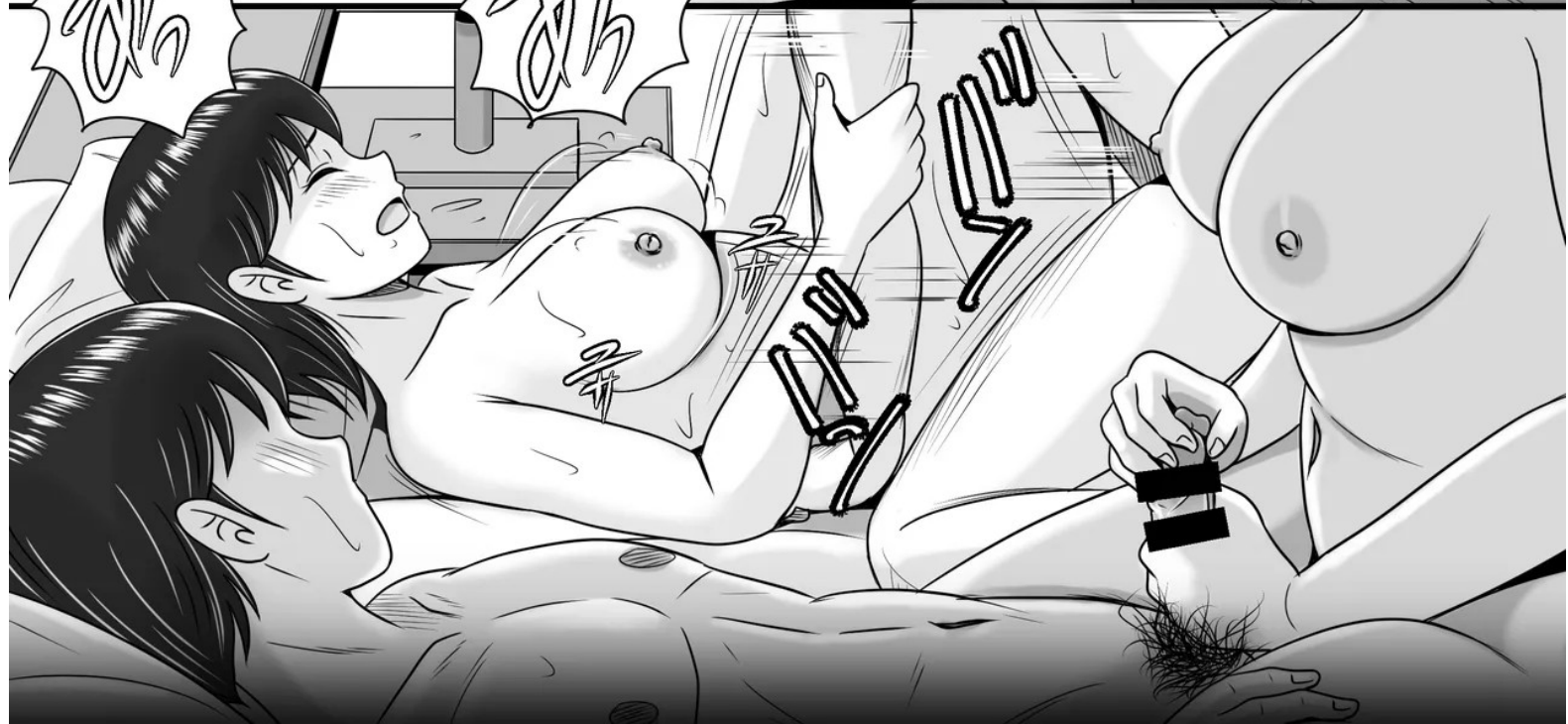
凄い  
奥まで入ってる!

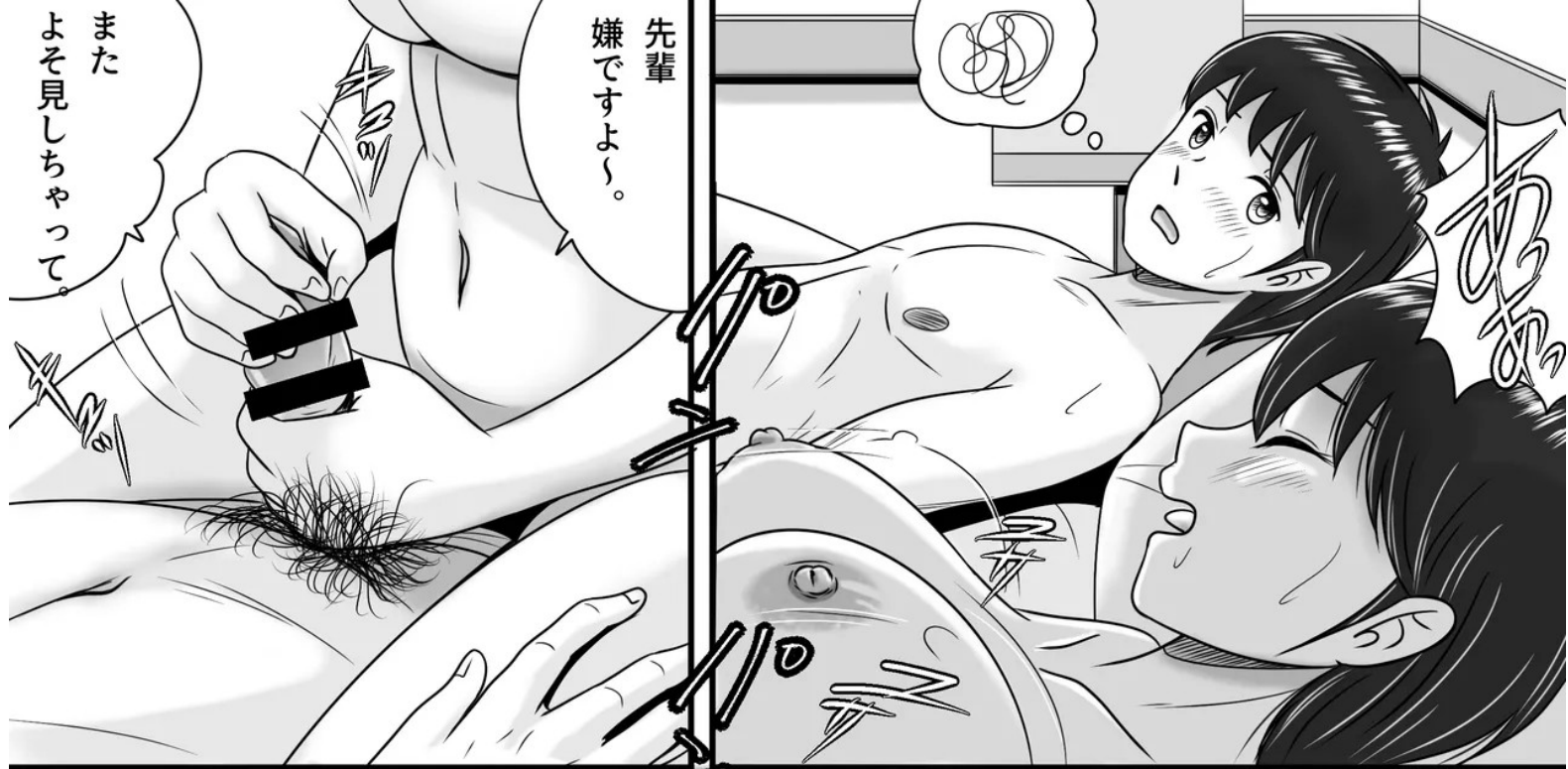


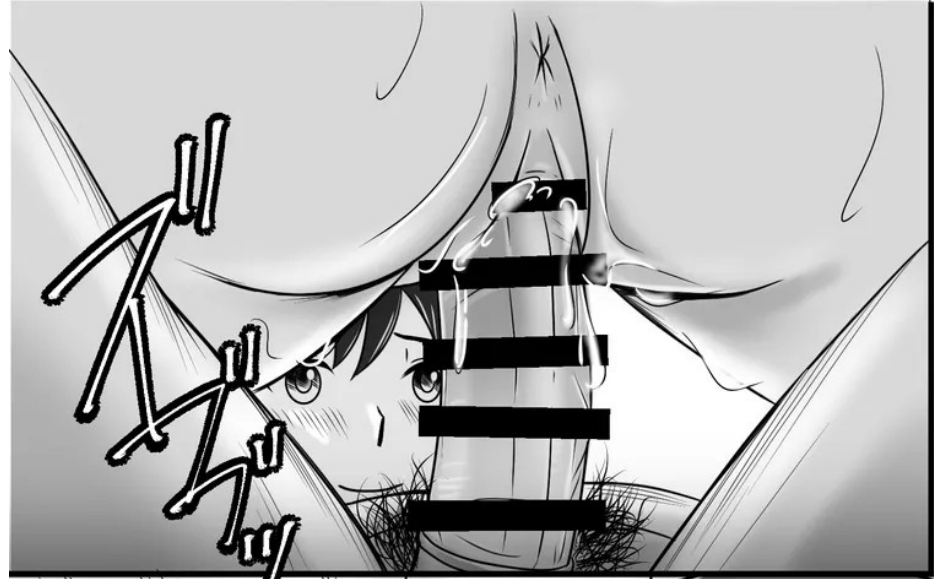
じゃあ  
動くぞ。

き、輝一君！  
ダメ！

もう少し  
ゆっくり！







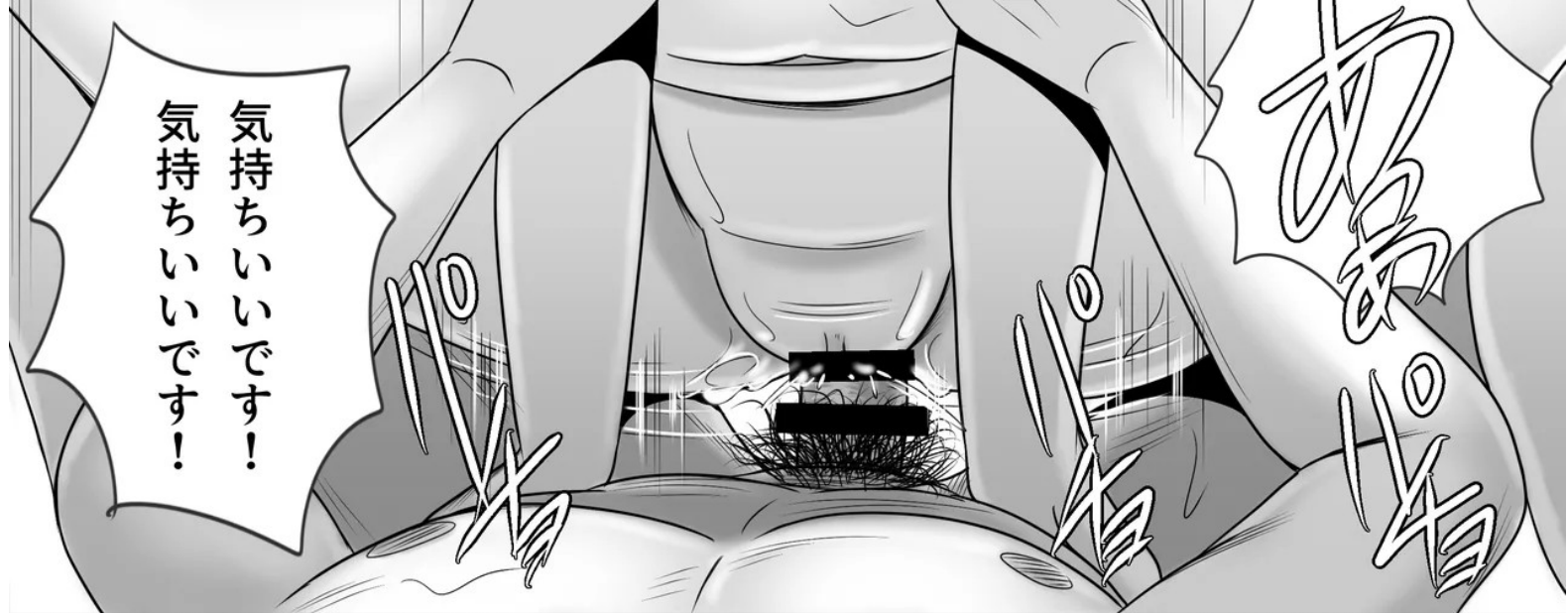
亮太先輩…

どうですか  
私のおまんこ。

卑ちゃん  
気持ちいいよ!



私も先輩のおちんちん  
気持ちいいです!



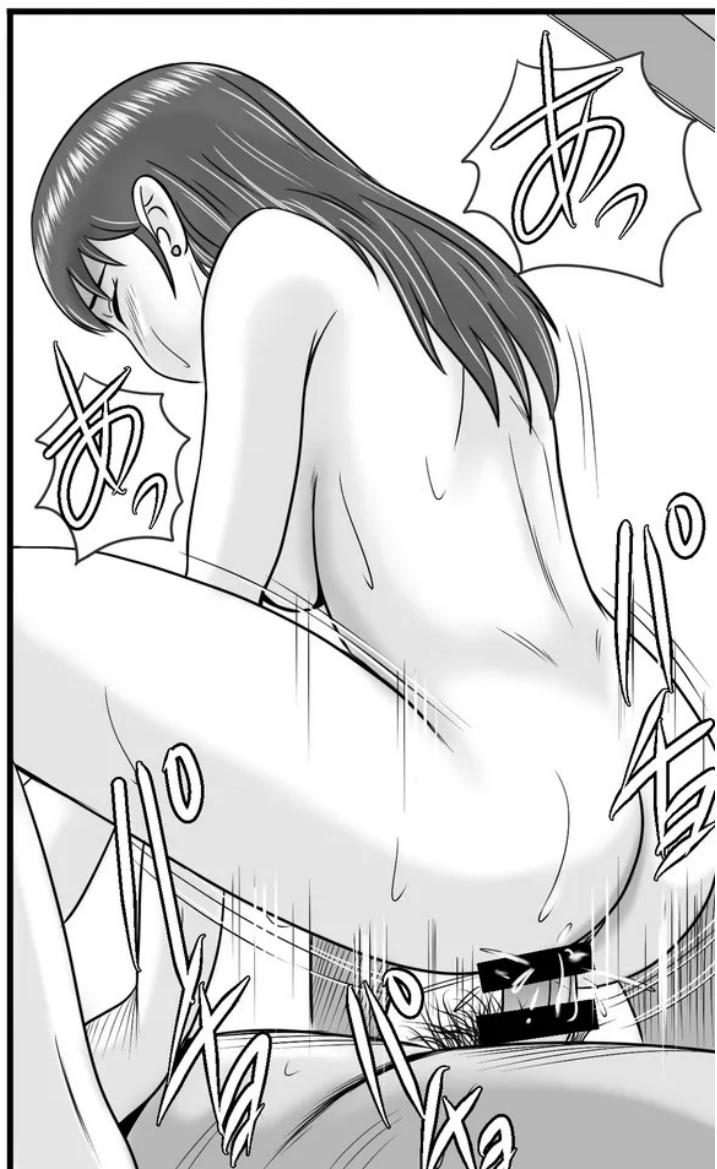
気持ちいいです！  
気持ちいいです！

あ  
あ  
あ  
あ



先輩のおちんちん  
良いところに  
当たってます！

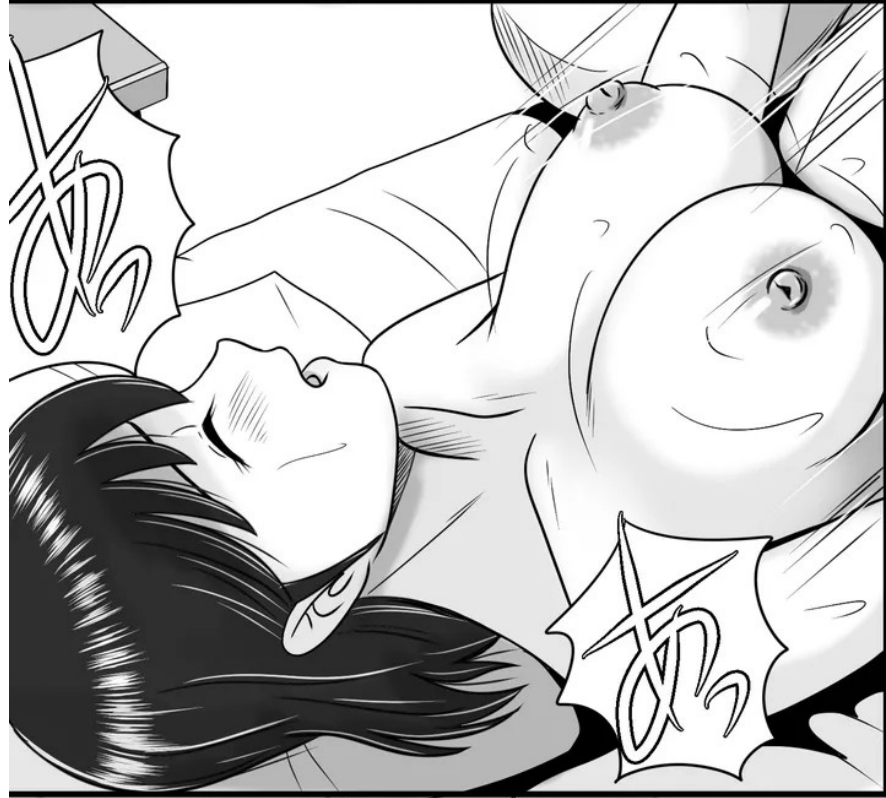
先輩！  
先輩！





あゝ  
輝一君の  
おちんちん

き、  
気持ちいい！



あゝ



あゝ  
気持ちいい  
ところに  
当たってる！



あゝ

あゝ

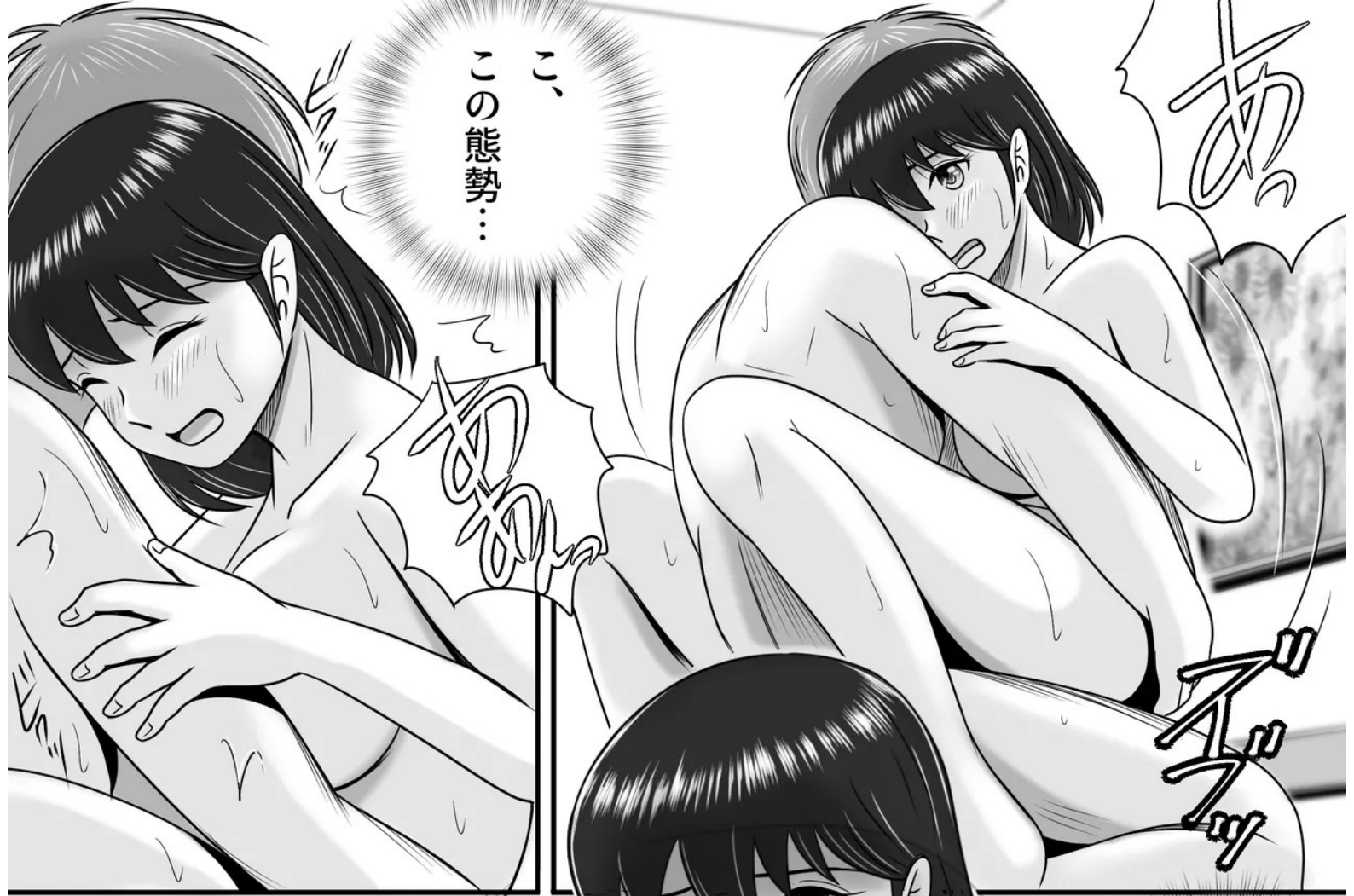


亮太じゃ  
届かない所…

ズンズン  
当たってる!



詩織、  
上に来てよ。



こ、この態勢…

あ



おちんちんが  
深くささって

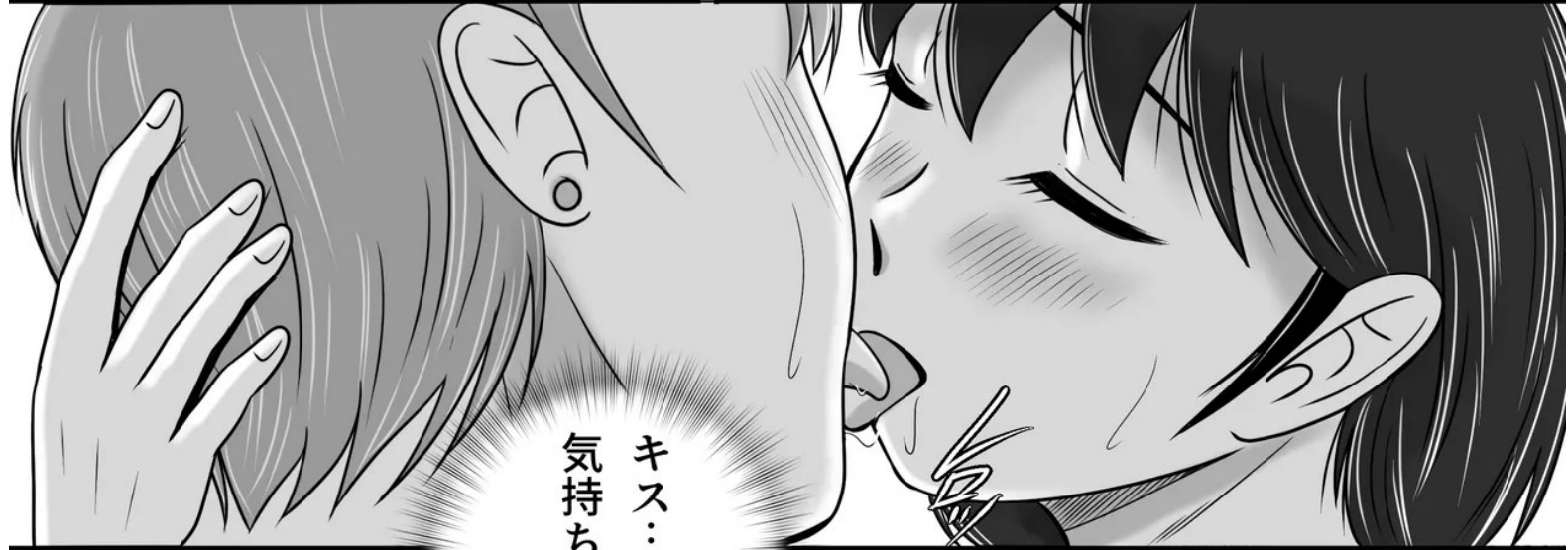
気持ちいい！



何だ？  
キスのおねだりか？



ねえ、  
輝一君…



キス…  
気持ちいい！

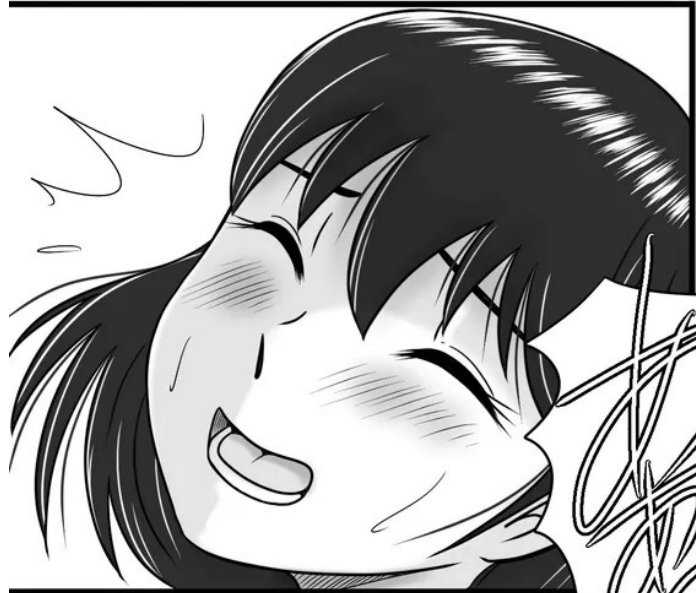


すっかり  
エロ詩織全開じゃ無いか



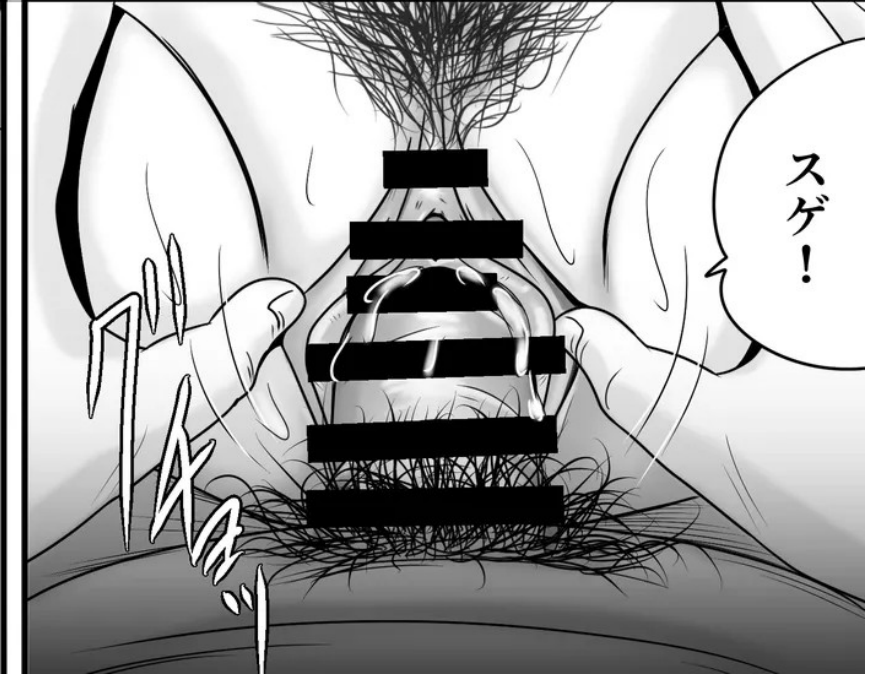
んんん

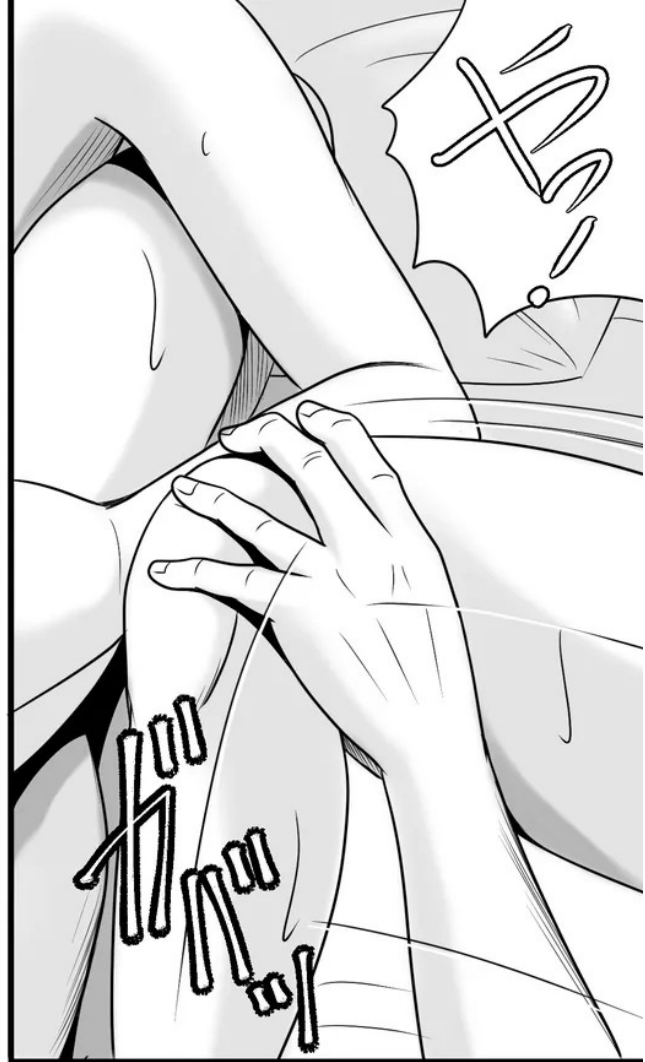
んんん



乳首：  
気持ちいい！

あッ！







今、  
いじっちゃ  
ダメ!

あっ!  
ダメ!



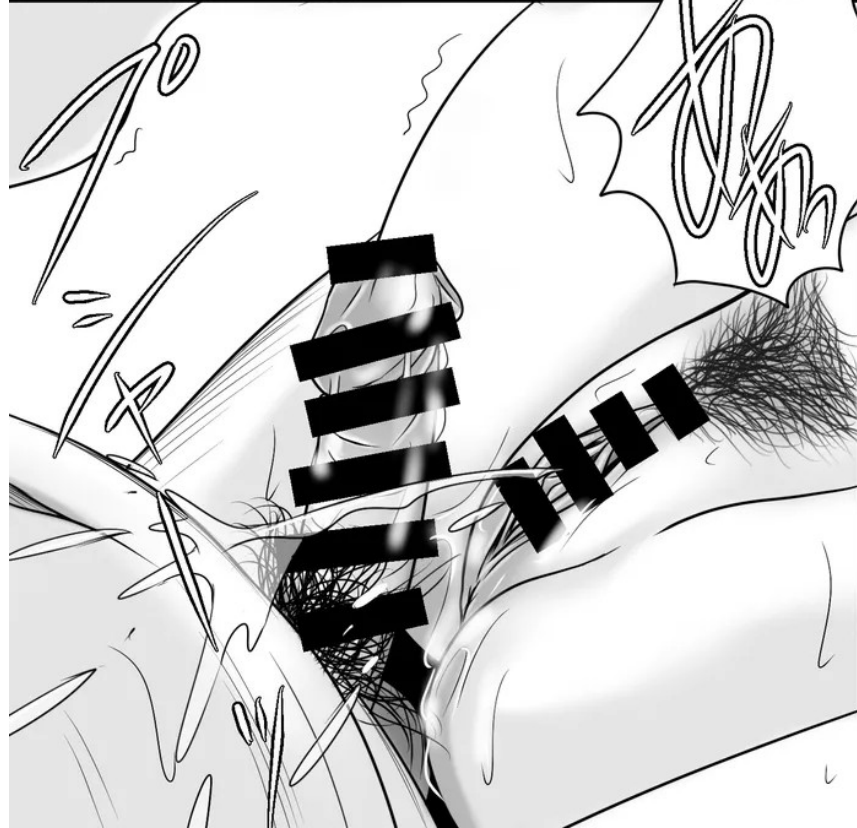
クリなんか  
こんなに膨れて  
真っ赤じゃないか。

それに、

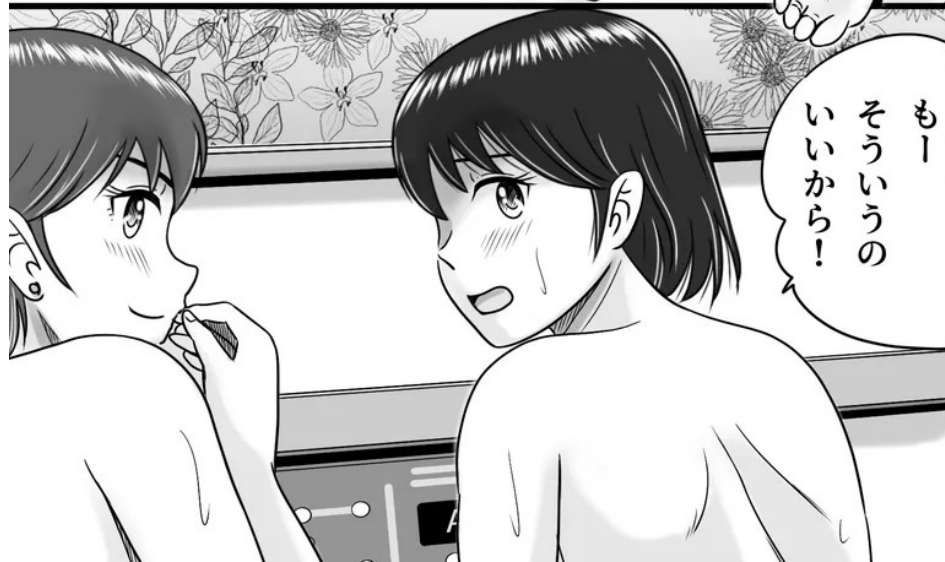




ああ！  
また出ちゃう！







早く  
入れてくれ  
ってか？

ところで詩織、  
今日は  
大丈夫な日なのか？

えっ！

い、一応…

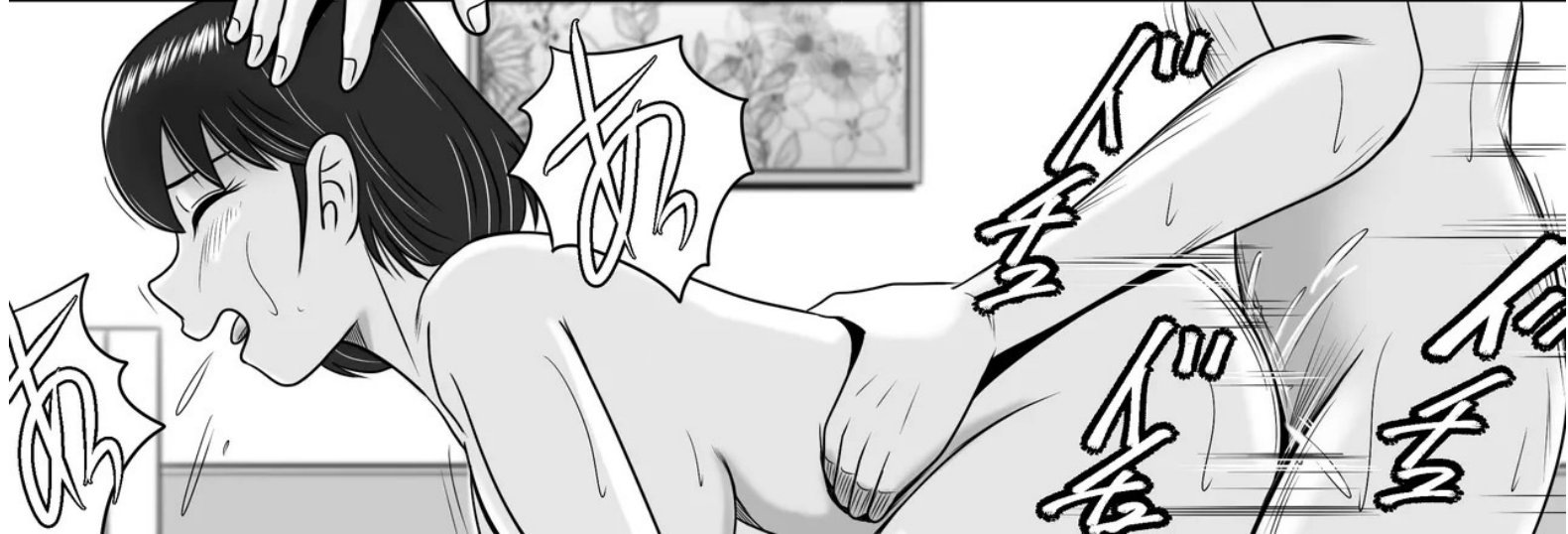
じゃあ…

いいよな…

ちよ、  
ちよっと  
輝一君！

何を！

^^-!

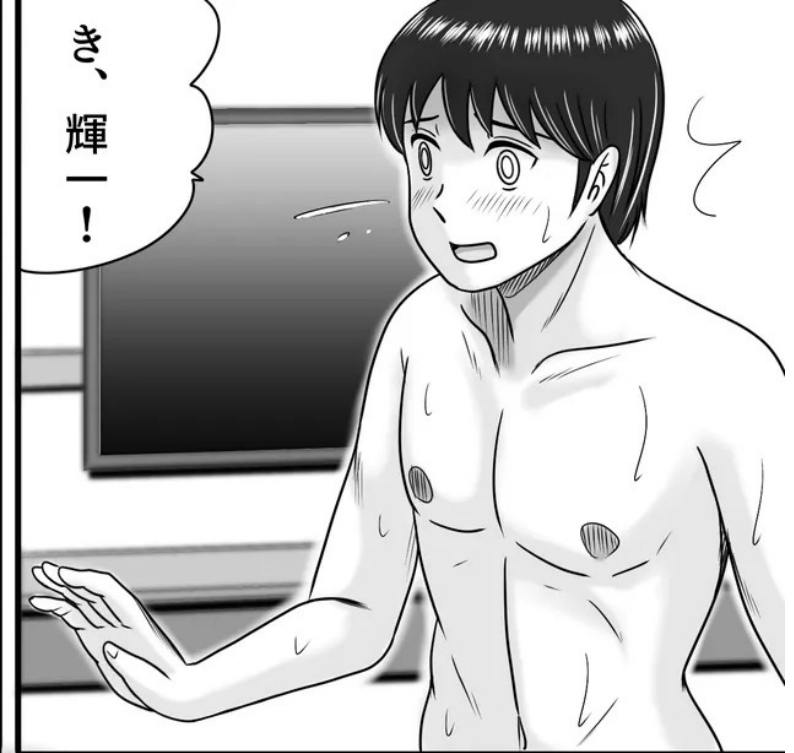




くくー！  
ささるささるー！

さすがに  
それは…

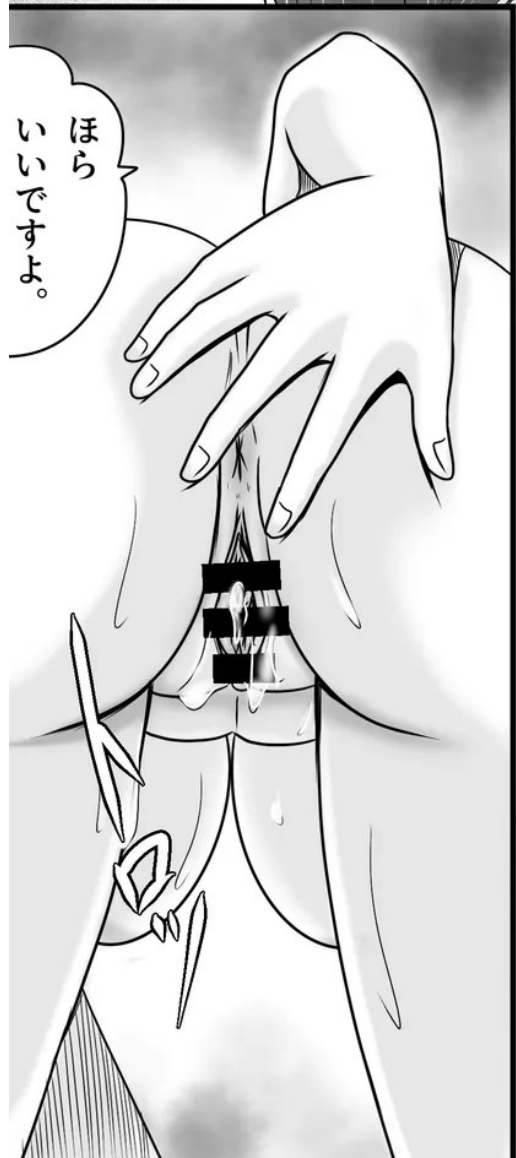
あ あ



き、輝一！



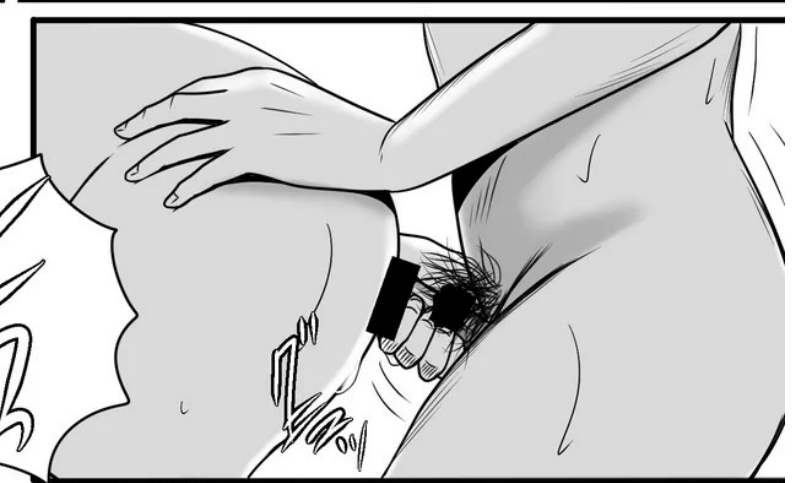
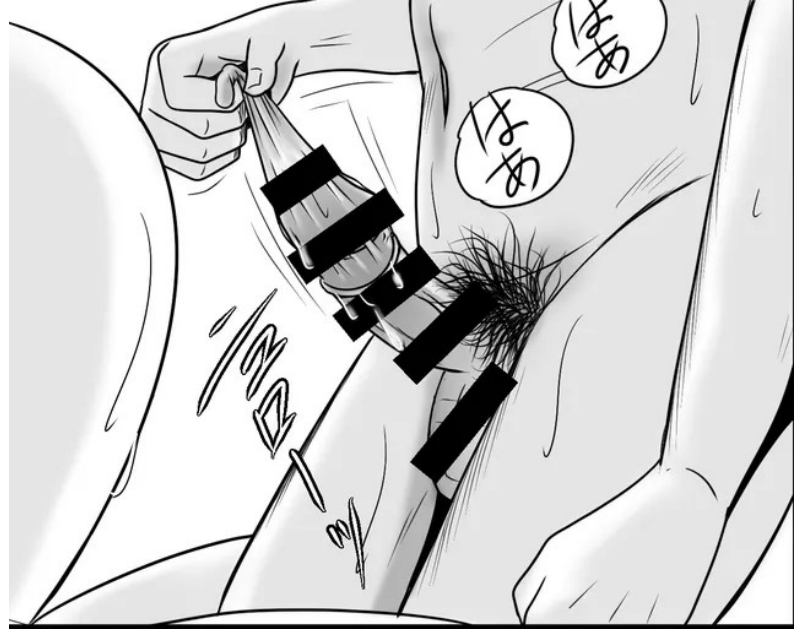
亮太先輩！

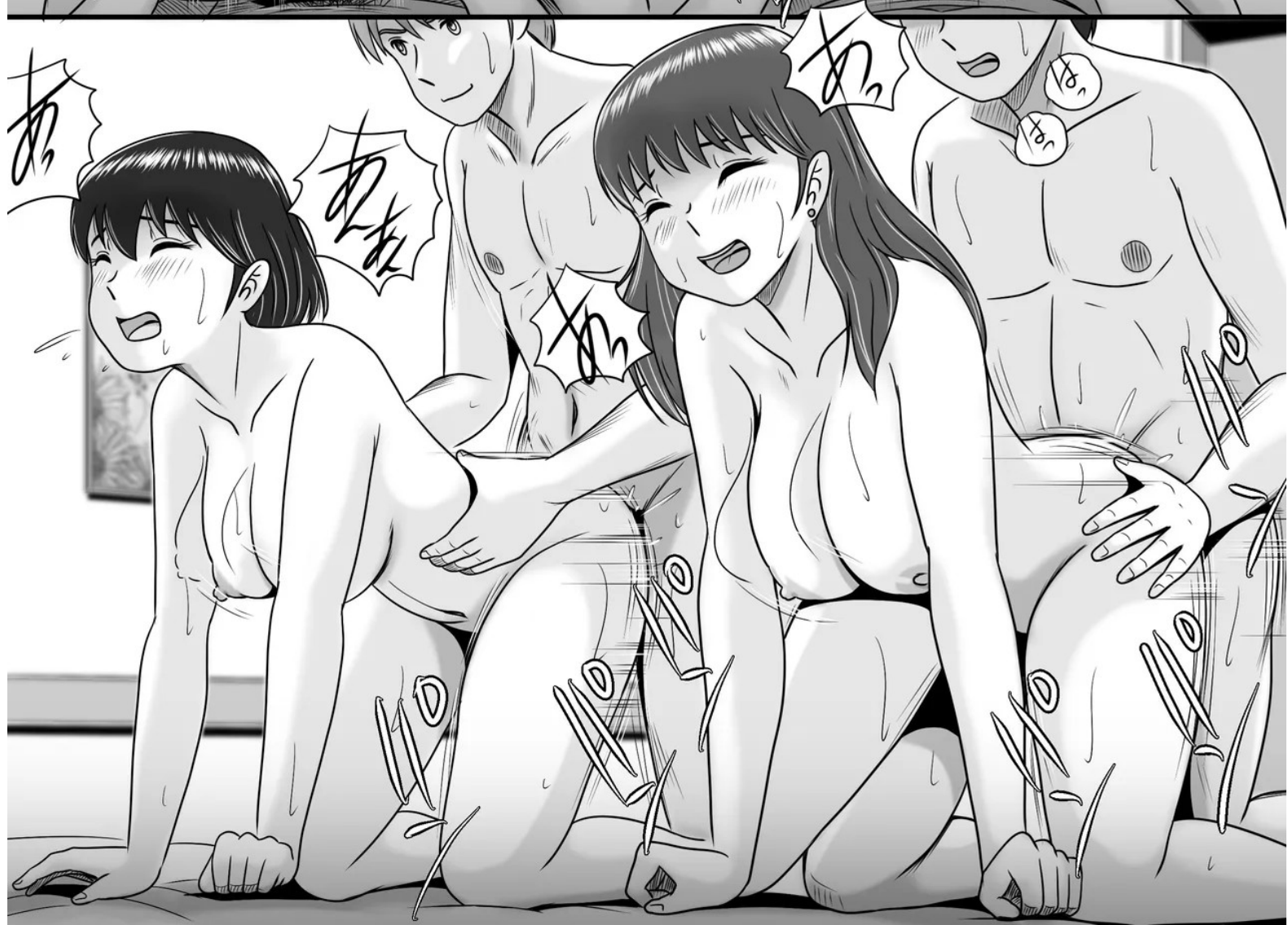


ほら  
ささるささるよ。



先輩も  
生でしませんか？





薄いゴムが  
無いだけ  
なのに：

あ

輝一君と  
一つになってる  
感じがする

あ

あ

あ

あ

あ

なんか動物の  
交尾みたい！

き、  
気持ちいい！

ハッ  
ハッ  
ハッ

どうだ？  
生はいいだろう？

き、  
輝一君！

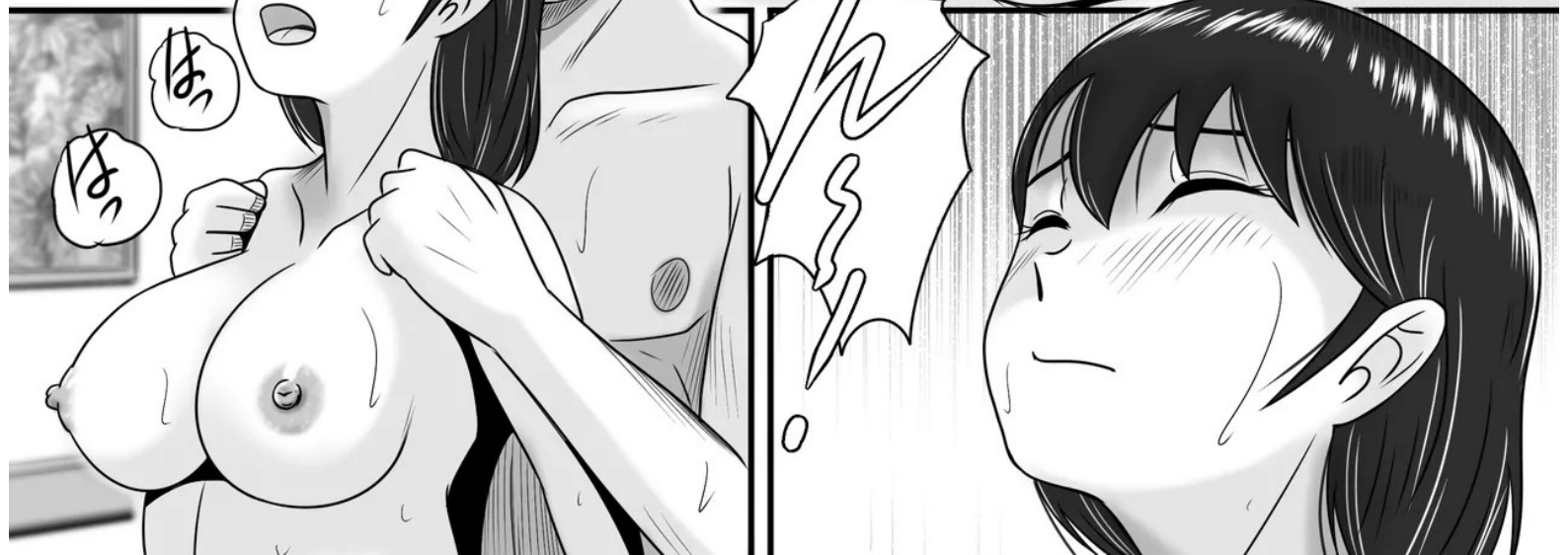
このまま  
思いっきり  
突いてやるよ！





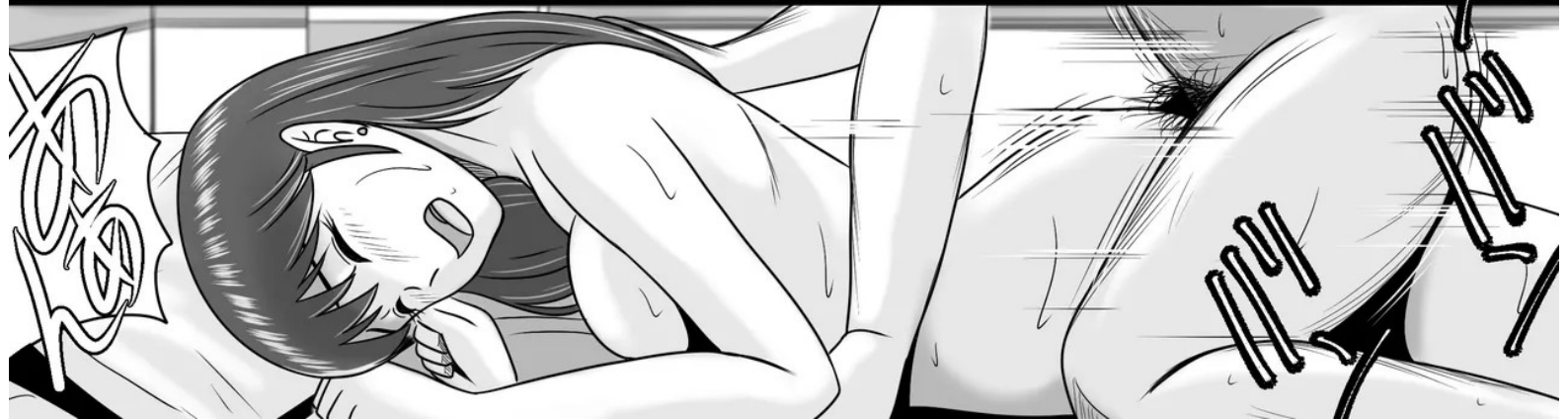
そんなに  
強く  
突かれたら!

いっちらう!



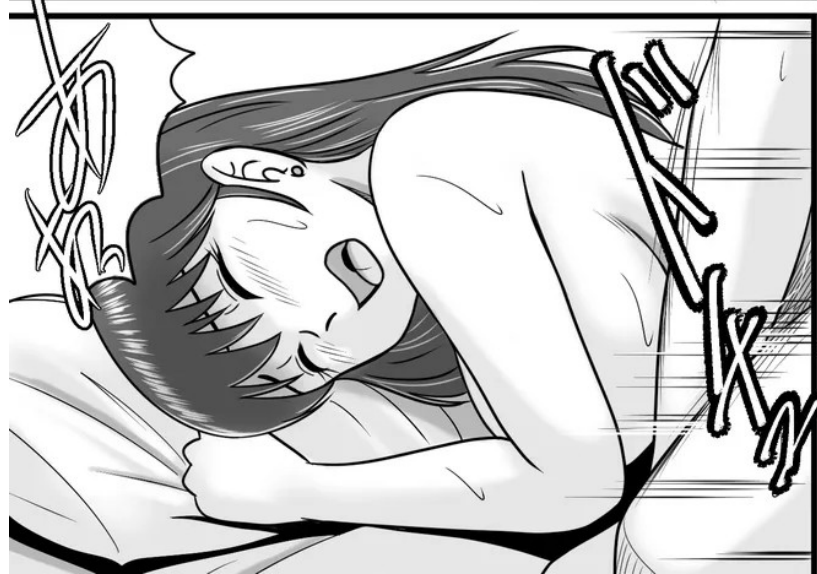
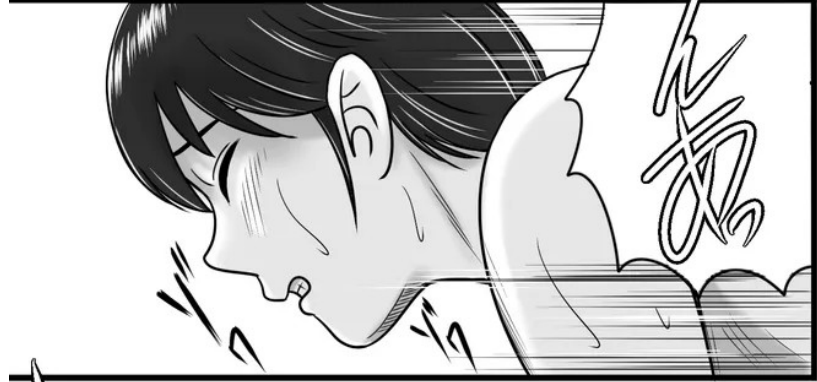
はっ

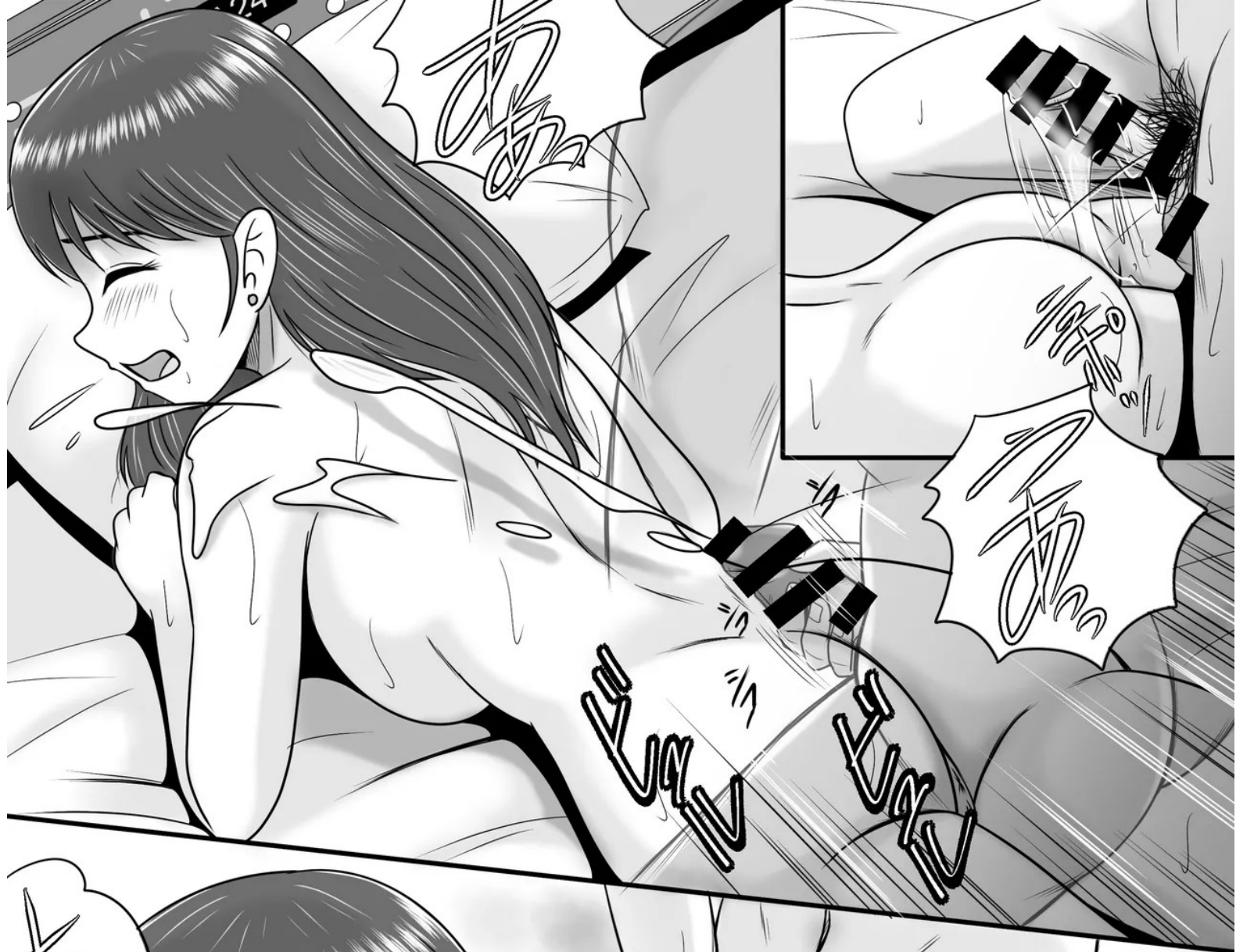
はっ



栗ちゃん  
もう  
出そう！

さっさと  
出さないと  
お尻が  
痛くなるよ。





栗ちゃん  
凄く良かったよ。

先輩、  
いっぱい  
出ましたね。



亮太のヤツ  
溜まってたんじゃねえの？  
お前ら  
ちゃんとやってるのか？

何  
言ってるの！



ちゃんと  
してるわよ！

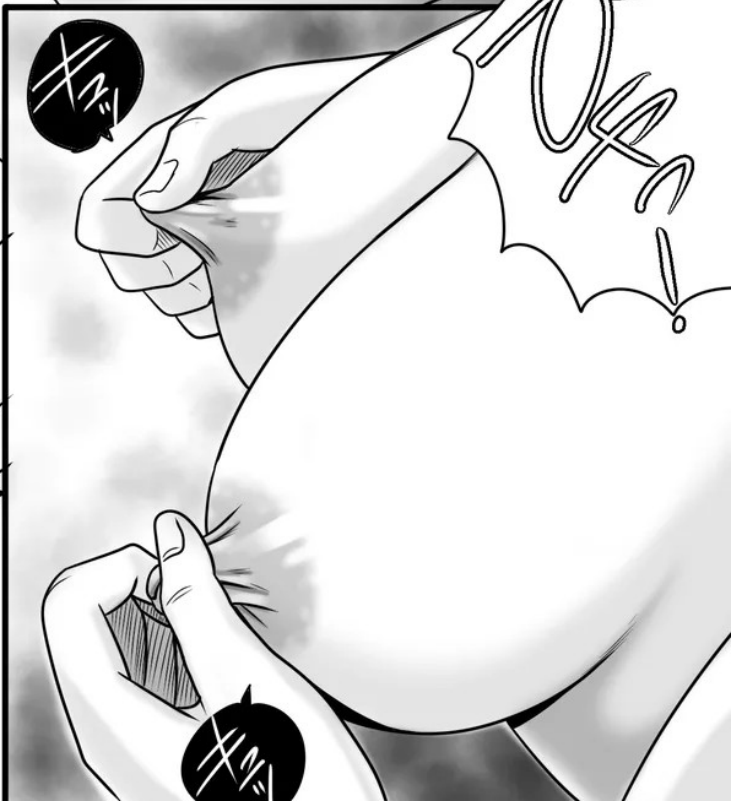


じゃあ俺も

いっせいで  
出させて  
もらおうよ。



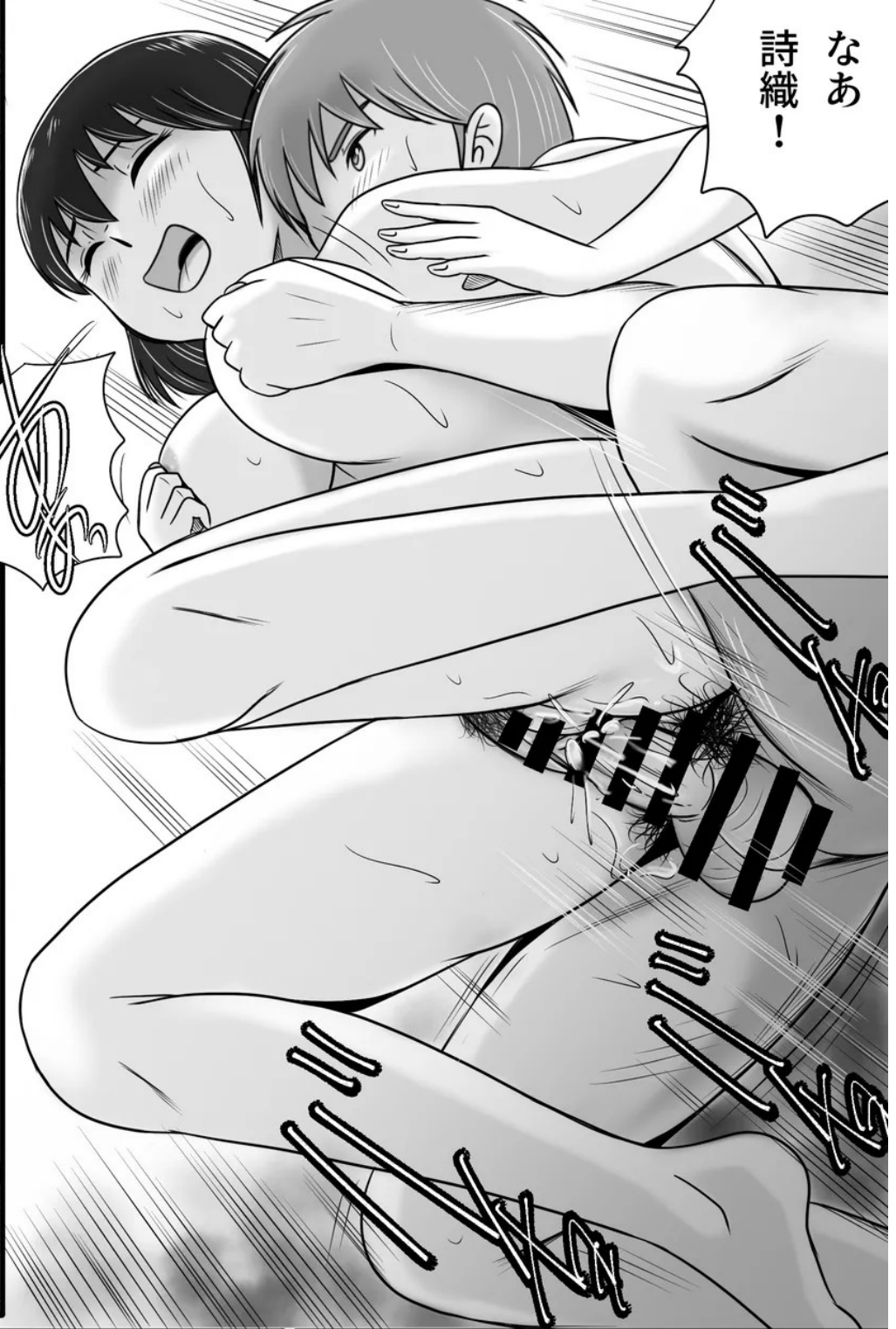
輝一君！



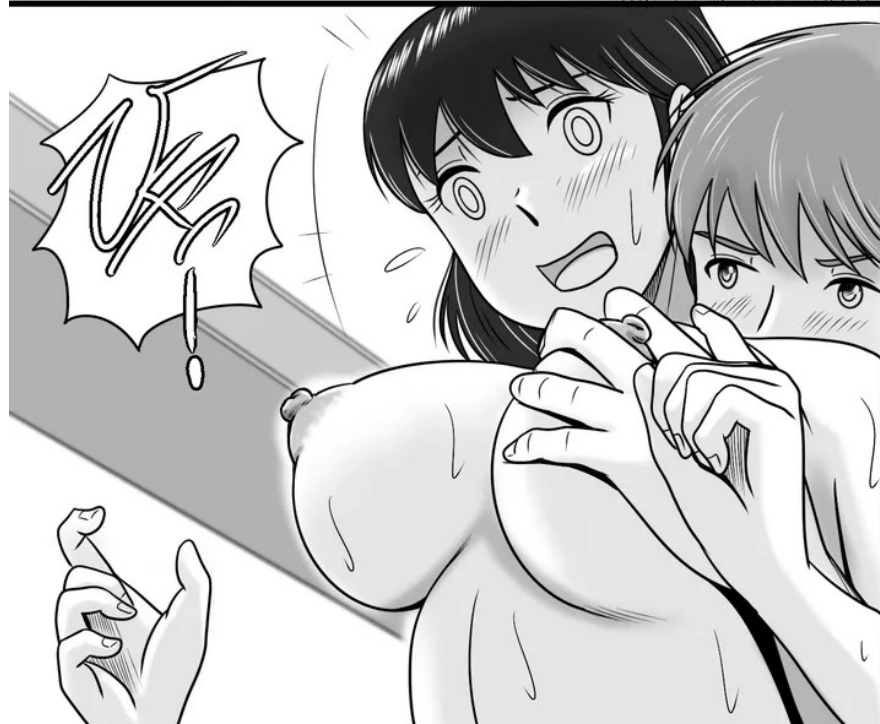


お前も  
そろそろ  
いききたいだろう？

えっ！



なあ  
詩織！



ほれ！  
これでどうだ！







嘘！中に  
出されちゃった…



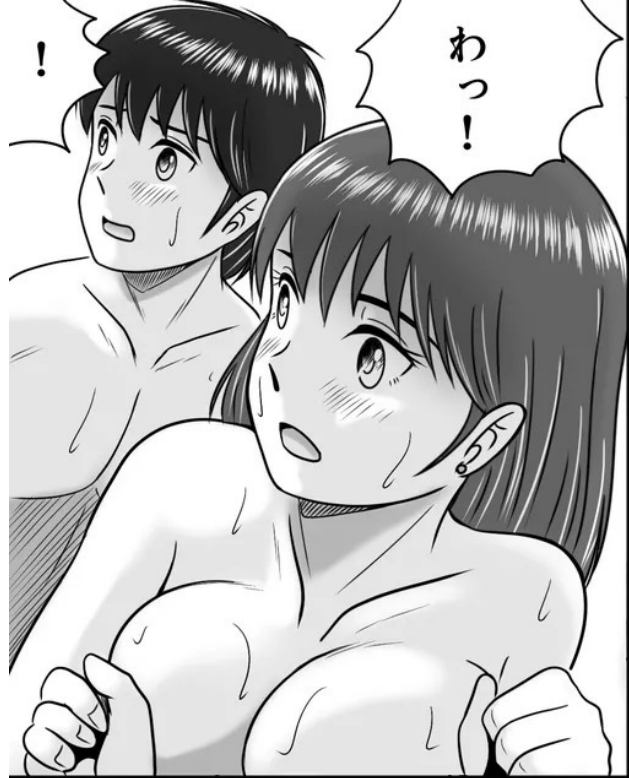
中出しまんこ  
皆に見せて  
やろうぜ！

えっ！



いやあ  
悪かったな。  
抜こうと思ったけど  
締め付けが凄くてな。

まったく  
エロいまんこだ。



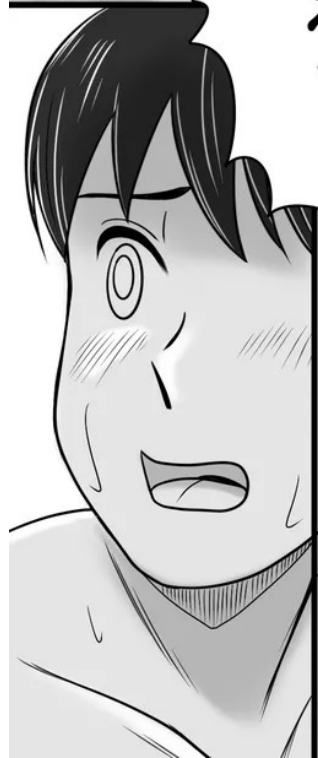
わっ!



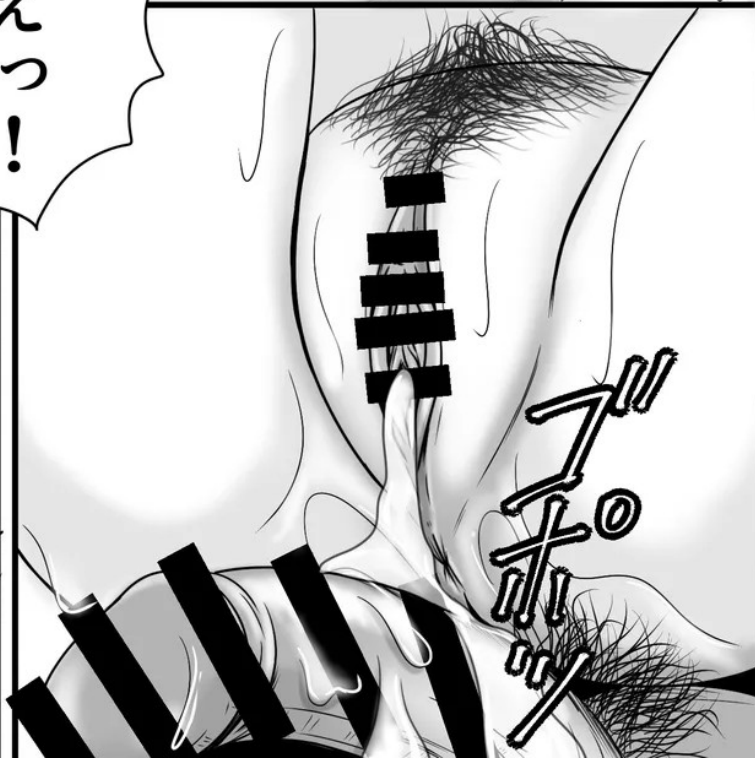
だ、ダメえ!

おし

ぐわ



えっ!



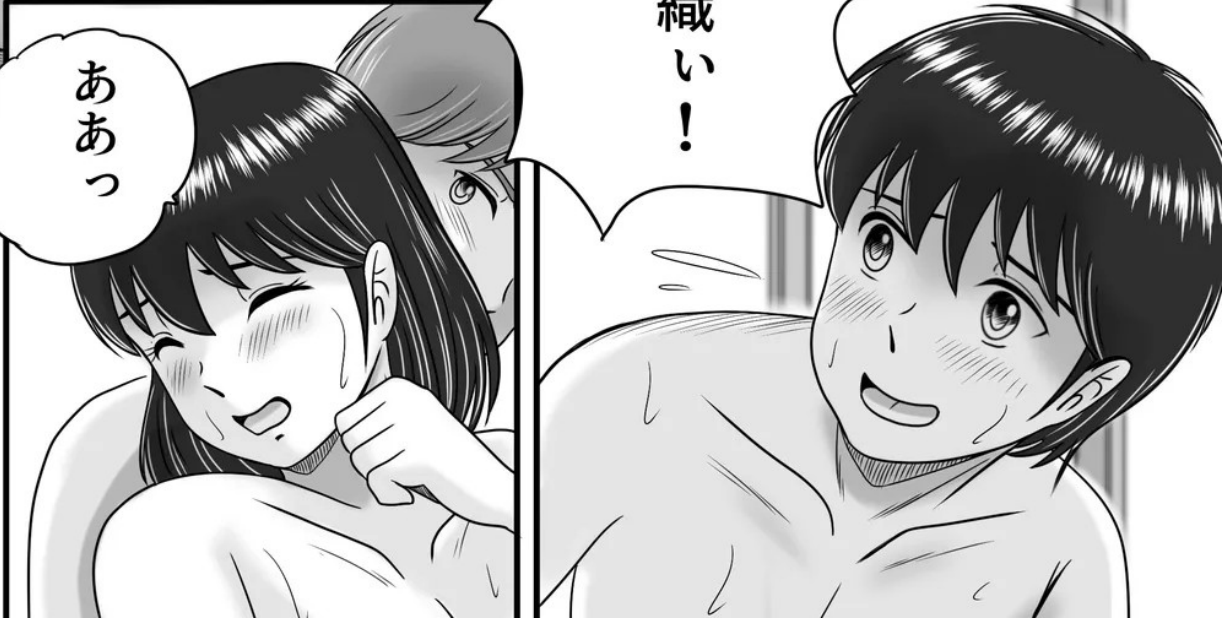
いやあ！  
見ないでえ！



詩織い！

ああっ

詩織い！



じゃあ、

私達は、  
先に帰るわね。

俺達は  
もう少し  
楽しんでくよ。

早くうゝ

きーちゃん

全部  
してあげる  
からね。

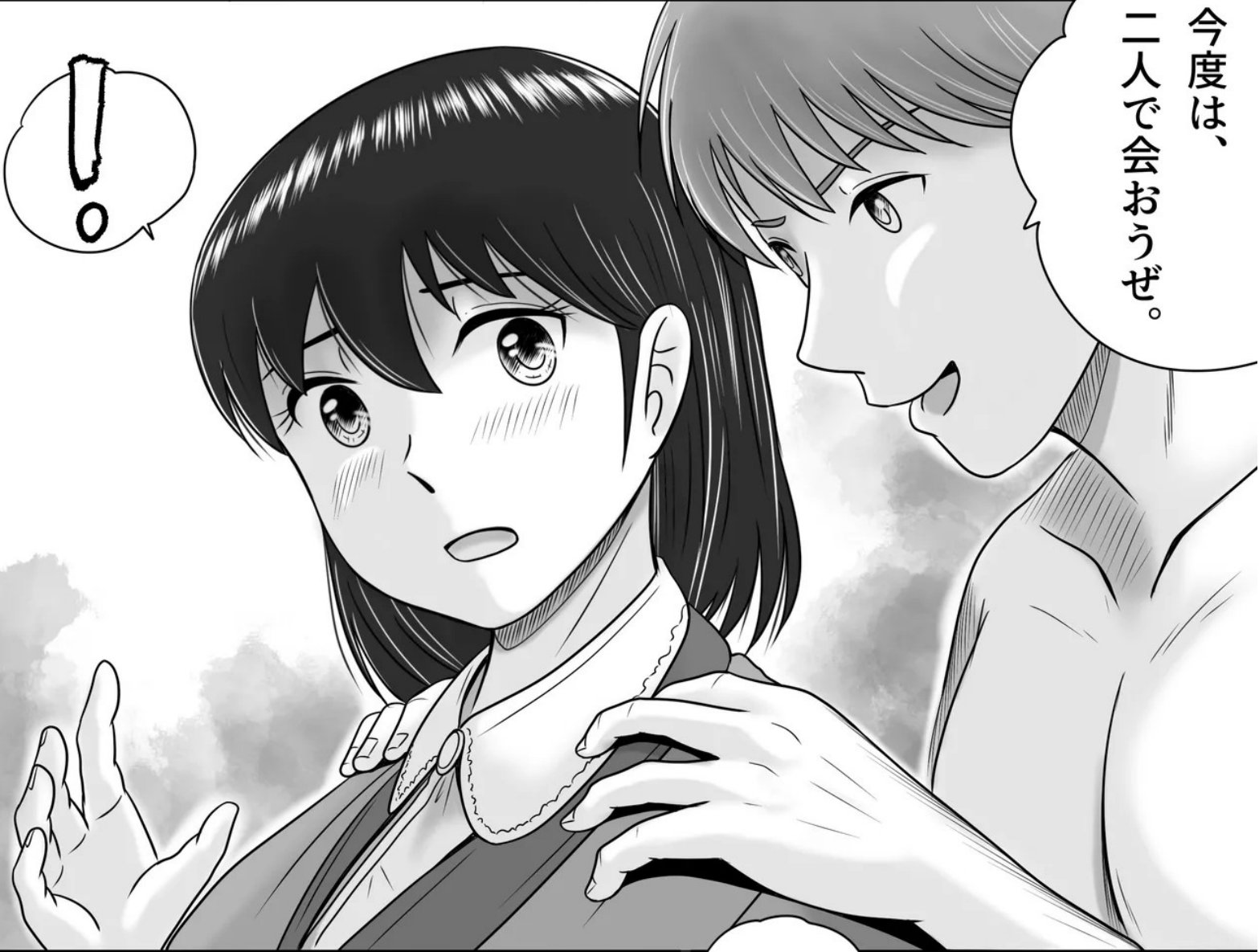
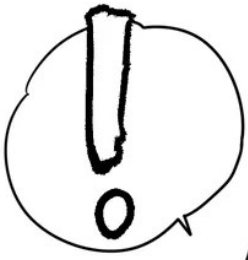
しゅわん

はい  
はい



なあ  
詩織。

今度は、  
二人で会おうぜ。



...



お買い上げ頂きましてありがとうございます！

続編にぜひ期待下さい！

